

国立大学法人香川大学諮問会議による 評価報告書

令和6年9月

国立大学法人香川大学



目 次

1. はじめに	1
2. 諮問会議委員名簿	2
3. 項目別評価	3
4. 配付資料	8
(令和6年7月25日開催第3回国立大学法人香川大学諮問会議配布資料)	
5. 関係規程等	87

1. はじめに

香川大学では、第4期中期目標・中期計画期間における業務運営の改善及び効率化に関する項目への対応として、令和4年4月1日付で設置した諮問会議を通じて、第4期中期目標・中期計画の中でも、特に、「自己点検・評価」、「社会との共創」、「リカレント教育」、「ダイバーシティの推進」、「財務運営」の5項目を対象に、外部の有識者からの意見を踏まえ、外部の知見を法人経営に生かすこととしております。

今回の諮問会議では、各委員の皆様には、当該5項目について、達成状況や成果はもとより、本学の近況や今後の取組等を内容とする「自己点検結果」をもとに、本学の強みとして伸ばしていくべきことや本学に今後期待すること等について、様々な観点から貴重なご意見をいただきました。心から厚くお礼を申し上げます。

諮問会議の委員の皆様から頂戴いたしましたご意見等は、今後の法人経営に反映させ、新たな価値と魅力を創造して、地域から世界に発信していけるよう、第4期中期目標の実現に努めます。

国立大学法人香川大学長

上田 夏生

2. 諮問会議委員名簿

綾田 裕次郎 株式会社百十四銀行取締役会長

大西 秀人 高松市長

田村 禎通 徳島文理大学学長

西原 義一 香川県信用保証協会会長

藤岡 実佐子 帝國製薬株式会社代表取締役社長

淀谷 圭三郎 香川県教育委員会教育長

(令和6年9月現在、五十音順、敬称略)

3. 項目別評価

1) 教育研究活動等の自己点検・評価に関すること

優れている点	・特になし
改善を要する点	・目標に対してほぼ目標どおりに進んでいるというような取組についても、「計画を十分に実施している」という自己評価になっており、何となく全部「計画を十分に実施している」というような感じで、自己評価的には少し甘いのではないか。今後、また違う表現の仕方ができるのであれば、検討いただきたい。
今後に期待する点	・研究の取組において、「計画を上回って実施している」という自己評価になっており、本当に素晴らしい様々な研究が進んでいるので、その実践している研究の状況について情報発信することを、強化いただきたい。

2) 社会との共創に関すること

2-1) 学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて

2-2) 地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて

2-3) SDGs に関する取り組みについて

優れている点	・各種各機関と手を取りながら、意欲的な共創プロジェクトに取り組んでいる。
改善を要する点	・特になし
今後に期待する点	・学生参加型の実践教育プログラムにおいて、参加している学生数が徐々に増えてきているところを非常に評価しており、さらに、何らかの形で学生が少しでも一つでも関わるような仕組みを検討いただきたい。 ・新しく庵治にできた施設「芸術未来研究場せとうち」を拠点として、瀬戸内を一つの大きなテーマとし、瀬戸内の海を或いは魚を活かしていくということで、意欲的に取り組んでいただきたい。

3) リカレント教育に関すること

優れている点	・特になし
改善を要する点	・特になし
今後期待する点	・リカレント専門講座について、こういったものが定着しているのか、受講された方が実際に実社会でどのように活かされているのか、ということを取り纏め、リカレント教育の成果の可視化を検討いただきたい。

4) ダイバーシティ推進体制に関すること

優れている点	・特になし
改善を要する点	・特になし
今後に期待する点	・ダイバーシティ推進に係る活動について、どのような進展があるのか、その都度公表していただきたい。

5) 外部資金の獲得状況に関すること

優れている点	・特になし
改善を要する点	・特になし
今後に期待する点	・特になし

第3回国立大学法人香川大学諮問会議

日時：令和6年7月25日(木)10:00～

場所：本部4階大会議室
(Teamsによる遠隔会議併用)

資料 1	外部評価の進め方について	1～4頁
審議資料 1	<u>教育研究活動等の自己点検・評価に関すること</u>	5～58頁
審議資料 2	<u>社会との共創に関すること</u>	59頁
審議資料 2 - 1	学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて	60頁
審議資料 2 - 2	地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて	61頁
審議資料 2 - 3	SDGsに関する取り組みについて	62～64頁
審議資料 3	<u>リカレント教育に関すること</u>	65～68頁
審議資料 4	<u>ダイバーシティ推進体制に関すること</u>	69～72頁
審議資料 5	<u>外部資金の獲得状況に関すること</u>	73～74頁
	＜諮問会議委員名簿、諮問会議規則＞	75～77頁

外部評価の進め方について

目的

本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果について学外者による検証を行う。

評価対象

別紙のとおり

評価方法

諮問会議委員による書面確認、諮問会議による役員等との意見交換を踏まえ、評価報告書を作成することにより行う。

評価手順

<①自己点検・評価書シートの確認>

- 「自己点検・評価書」等の内容を確認し、評価を行う。

<②諮問会議による本学役員等との意見交換>

● 諮問会議では、自己点検・評価書をもとに本学の近況について説明するとともに、本学の強みとして伸ばしていくべきことや、本学の目的・理念等に照らし、本学に今後期待すること等について意見交換を行う。

- ・ 「優れている点」 : 本学の強みとして伸ばしていくべき事項
- ・ 「改善を要する点」 : 本学の弱みとして改善すべき事項
- ・ 「今後に期待する点」 : 本学の目的・理念等に照らし、本学に今後期待する事項

公表

<評価報告書の作成・公表>

- 諮問会議委員による評価結果や諮問会議での意見交換の内容等を踏まえ、事務局にて評価結果を取りまとめ、評価報告書の原案を作成し、諮問会議委員がこれを確認する。
- 諮問会議委員による内容確認を経て、評価報告書を完成させ、本学ホームページで公表する。

スケジュール

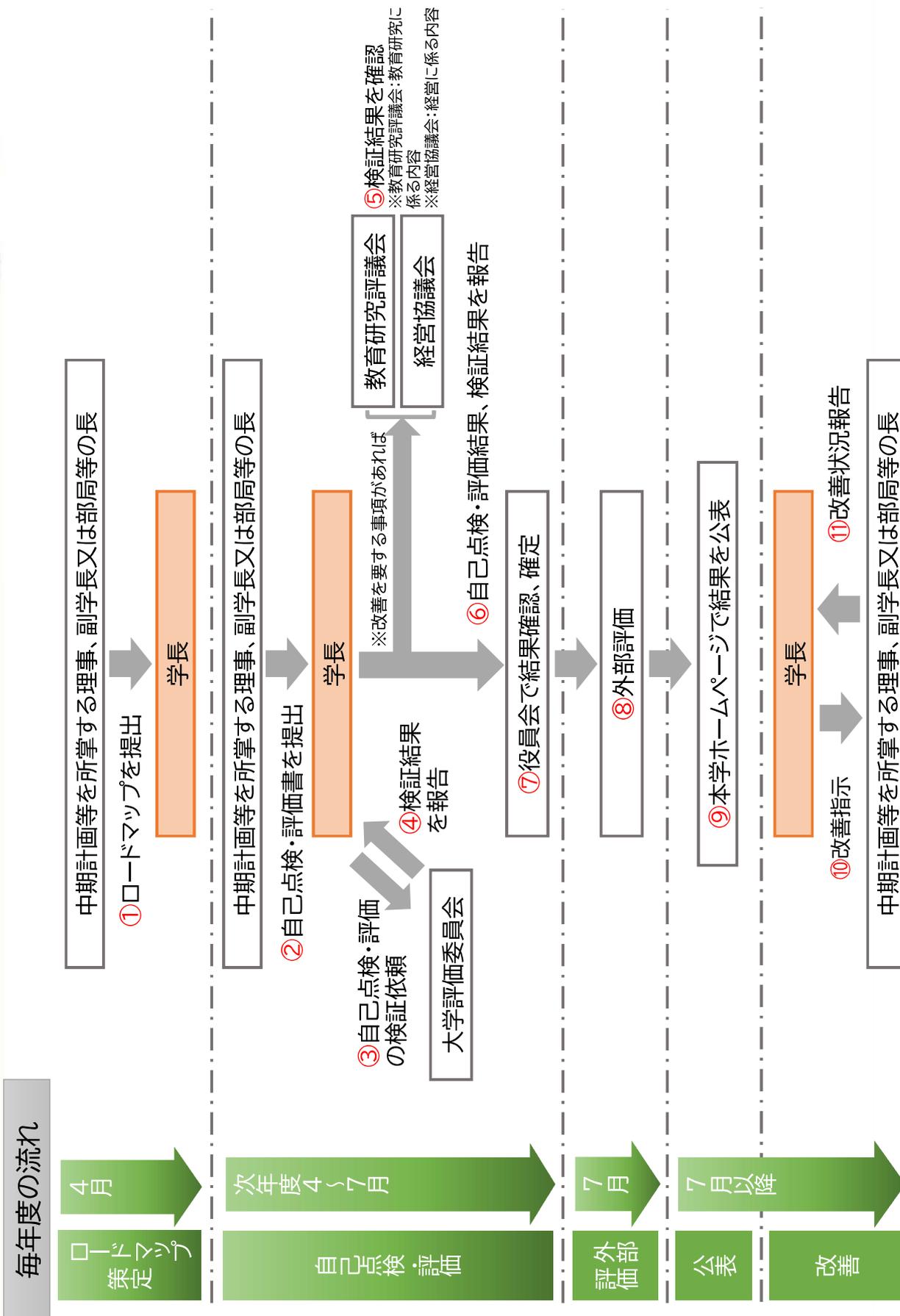
◆ 毎年度7月に開催

外部評価の評価対象について



中期目標	中期計画上の取組	実施体制	構成員	備考
②業務運営	経営上の課題についての諮問会議による意見聴取			・①⑩⑬⑳を第4期中の経営上の課題に設定し意見聴取 ・㉔の外部評価を実施
①社会との共創	プログラム、プロジェクト、SDGsの取組についての地域関係者による外部評価			
⑩リカレント	リカレント教育についての地域関係者による外部評価	諮問会議	経営協議会の外部委員+地域の有識者	
⑬ダイバーシティ	ダイバーシティの活動計画についての外部有識者による検証			
⑳財務運営	外部資金の獲得状況についての外部有識者から意見聴取			
㉔自己点検・評価	自己点検・評価に基づく外部評価の実施			

(参考) 中期目標・中期計画に係る自己点検・評価について



評価事項：教育研究活動等の自己点検・評価に関すること〔中期目標・中期計画②4〕

1. 令和5年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

<p>【反映状況】</p> <p>令和4年度自己評価において「(II)計画を十分に実施していない。」とした2項目について、令和5年10月頃に中間チェックを実施するなど、適宜進捗を確認するなどしている。</p> <p>それぞれの事項について、中期計画の達成に向けて取組を進めており、令和5年度自己評価においては、「(III)計画を十分に実施している」等と判定できる実施内容となっている。</p> <p>(8頁～11頁のとおり)</p>	<p>優れている点</p> <p>改善を要する点</p> <p>今後に期待する点</p>	<p>・特になし</p> <p>・特になし</p> <p>・自己評価として「(II)計画を十分に実施していない。」と判定した事項(下記2項目)についても、今後、適宜進捗を確認する等、着実に実施いただきたい。</p> <p>●〔中期目標大綱番号⑦No.6 国際学会や全国学会での発表を促進するための取組を強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。〕</p> <p>→人文社会系を中心に、全国学会での発表を促進するための取組を強化いただきたい。</p> <p>●〔中期目標大綱番号⑨No.8 教育学研究科では、「令和の日本型学校教育」に資する次世代の教員を育成するために、学校教育現場との連携を一層深め、①学校マネジメントに関与する資質・能力の強化、②多様化する幼児・児童・生徒に対応した個別最適な学びを実現する指導力の強化に重点を置いた、授業やカリキュラムの改善に取り組む。〕</p> <p>→香川県と連携し、「新しい時代に求められる資質・能力」の明確化について、令和5年9月末の達成に向け、努めていただきたい。</p>
---	--	--

背景及び第4期中期計画

国立大学法人法の改正により、第4期中期目標期間から、年度計画の策定及び年度評価が廃止。それに伴い、文部科学省から各法人の責任において、自己点検・評価の実施が求められた。

第4期中期計画・評価指標

②4中期計画の進捗状況、評価指標の達成状況等について、客観的なデータに基づき自己点検・評価するとともに、外部の意見を取り入れた評価結果を公表する。
 a. 中期計画の達成状況の自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果や改善状況等を公表する。
 b. 外部評価を実施し、評価結果及び評価結果の反映状況等の公表を行う。

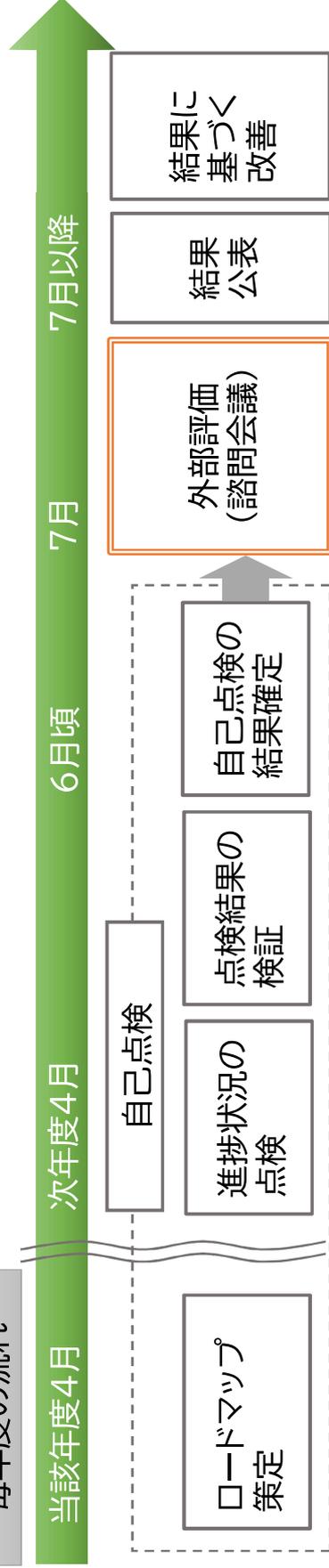
諮問事項及び実施年度

諮問事項：中期計画の進捗状況について

実施年度：1、2、3、5年目終了時

4、6年目終了時は、国立大学法人評価委員会による評価を受けるため、法人評価を受けない年度についても、第三者による評価を受けることで、中期計画の進捗状況の検証や改善をしっかりと行う。

毎年度の流れ



中期目標・中期計画に係る令和5年度自己点検・評価結果について

1. 自己点検・評価結果の検証結果

理事等から提出された自己点検・評価書に基づき、中期計画に対する実施状況・成果や各評価指標に対する実績等を確認し、点検結果の検証を行った。

自己点検・評価が適切に実施されており、令和5年度自己判定が妥当である旨、確認した。

2. 令和5年度自己点検・評価結果（詳細な自己点検・評価結果等については別添のとおり）

中期目標		中期計画	評価指標	自己点検・評価結果
社会との共創	1項目 ①社会との共創	3項目	8指標	中期計画達成状況 (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0件 (Ⅲ) 計画を十分に実施している : 3件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件
教育	5項目 ①リカレント ⑬ダイバーシティ	9項目	22指標	中期計画達成状況 (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 2件 (25頁、31~32頁) (Ⅲ) 計画を十分に実施している : 7件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件
研究	2項目	4項目	9指標	中期計画達成状況 (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 3件 (37~38頁、39頁、40頁) (Ⅲ) 計画を十分に実施している : 1件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件
医療	1項目	3項目	8指標	中期計画達成状況 (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0件 (Ⅲ) 計画を十分に実施している : 3件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件

中期目標		中期計画	評価指標	自己点検・評価結果
業務運営	5項目 ②[業務運営] ③[財務運営] ④[自己点検評価]	8項目	17指標	中期計画達成状況 (Ⅳ) 計画を上回って実施している : 0件 (Ⅲ) 計画を十分に実施している : 8件 (Ⅱ) 計画を十分には実施していない : 0件 (Ⅰ) 計画を実施していない : 0件

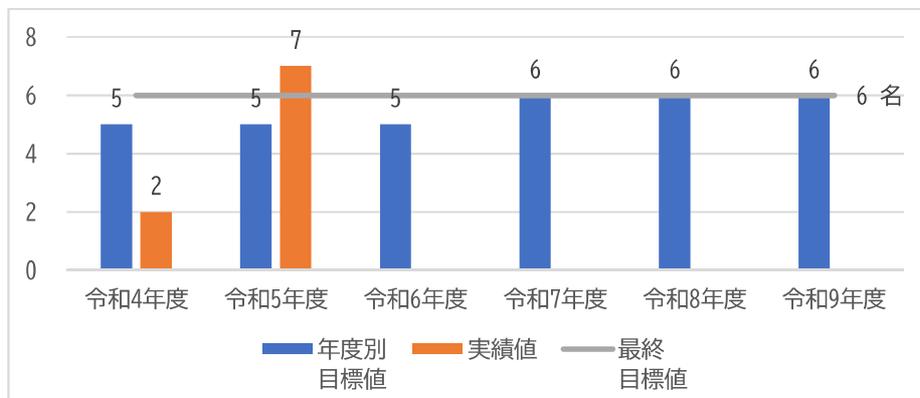
3. 令和4年度自己点検・評価において「(Ⅱ) 計画を十分には実施していない」と自己評価した取組に係る進捗状況等について

【中期目標大綱番号⑦】

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画	2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。
令和4年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している

(令和5年度取組内容等)

- ・昨年度、未達成となっていた博士課程進学者数について、年度別の目標値を達成している。



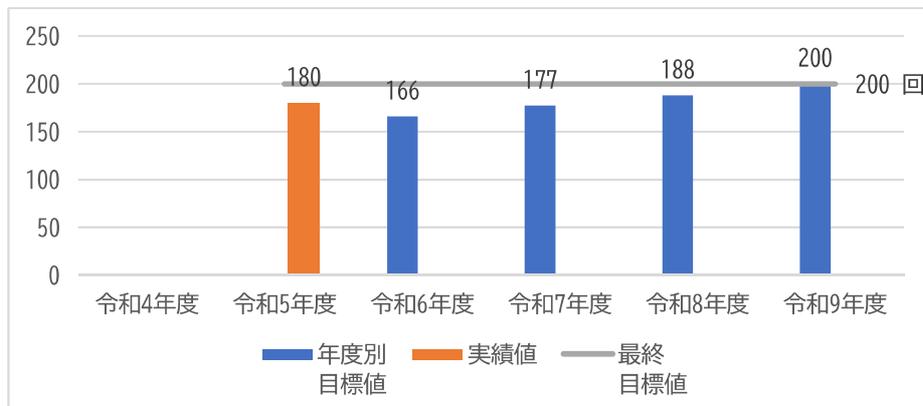
令和4年度に、博士課程進学者の数を増加させるために必要な方策についてのアンケートを、博士課程進学者が在籍する研究室の指導教員を対象に実施し、その結果、博士課程修了後の多様な明るいキャリアパスを紹介すること、及び博士課程での研究活動を修士学生に広報・周知する、の2つの方策

が、博士課程進学者の数を増加させるために有効であると考えている指導教員が多いことがわかった。そこで令和4年度に、博士課程での研究活動や、博士課程修了後の多様な明るいキャリアパスを紹介するためのリーフレットを作成し、修士学生に配布する方策を策定した。令和5年度4月3日に開催された入学式において、リーフレットを修士課程入学者全員に配布したほか、前年度に修士課程に入学した学生全員にも配布した。リーフレットは更に改定し、令和6年4月3日に開催された大学院博士前期課程の入学式でも配布した。また令和5年度10月27日に「博士フェスティバル」を実施した（参加者数107名（対面53名、遠隔54名））。この中で、博士人材の活躍推進に向けた最近の動向や創発科学研究科博士後期課程の紹介、香川大学大学院博士課程紹介動画「好奇心に終わりはない！」試写、パネルディスカッション「香川大学大学院博士課程に期待するもの」、博物館タイアッププログラム「保井コノ-讃岐が生んだ日本初の女性博士-」などを行った。アンケートに回答した学生27名のうち20名が、本イベントを通じて博士課程への進学意向が高まった、またはどちらかといえば高まったと回答した。

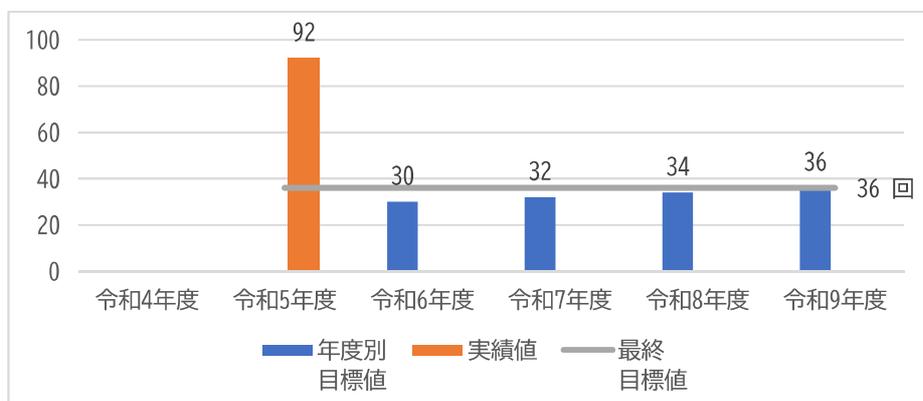
- ・昨年度、未達成となっていた修士課程学生の国際学会及び全国学会での発表数について、令和4年度に、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策についてのアンケートを、大学院を担当している本学のすべての教員を対象に実施し、その結果、学生が発表を行ったことを評価するための制度を設けることが、発表件数を増加させることに対して有効であると考えている指導教員が多いことがわかった。そこで令和4年度に、「香川大学学術研究活動表彰」を新たに制定し、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、表彰する支援制度を設けた。令和5年度9月27日に令和5年度第1回学術研究活動表彰式を実施し、10名（創発9名、農1名）の大学院生に対して表彰を行った。

指標については、従来、理系学生については国際学会での発表数のみをカウントしていたが、令和4年度に文理融合・分野横断を趣旨として開設した創発科学研究科において、入学後は「文系・理系」の枠を越えた学修・研究を行っており、創発科学研究科の学生を文系・理系に区別することは困難であることから、本学大学院の目標・実態と合致するよう、「理系学生は国際学会での発表数のみをカウント」というような条件を整理し直した。令和6年度以降、文系・理系にかかわらず、国際学会及び全国学会での発表数を指標として設定したところである。

(参考1：全国学会での発表数)



(参考2：国際学会での発表数)



【中期目標大綱番号⑨】

中期目標	I 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨
中期計画	3-1 教育学研究科では、「令和の日本型学校教育」に資する次世代の教員を育成するために、学校教育現場との連携を一層深め、①学校マネジメントに関する資質・能力の強化、②多様化する幼児・児童・生徒に対応した個別最適な学びを実現する指導力の強化に重点を置いた、授業やカリキュラムの改善に取り組む。
令和4年度自己判定	(Ⅱ) 計画を十分には実施していない
令和5年度自己判定	(Ⅳ) 計画を上回って実施している

(令和5年度取組内容等)

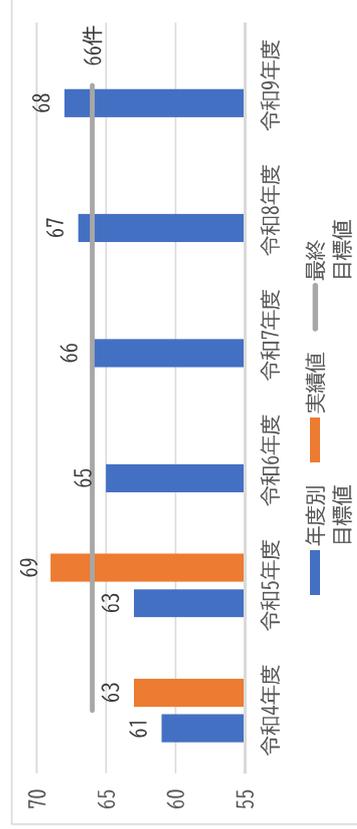
- ①兵庫教育大学（フラッグシップ大学）の取り組みに関して、重点的に視察を行い、本学の改革に向けての示唆を得るとともに、「新たな時代に求められる教師の資質・能力分類表（試案）」を策定したことに加え、文部科学省委託事業「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の取組として、資質・能力分類表（試案）をモデル開発のアプリに搭載した。これにより資質・能力分類表（試案）が、アプリに基づく研修奨励システムの中核となり、数多くの学校で実践されることとなるなど、香川県の小・中・高における研修奨励システムのスタンダードとなる。このことは、県全体の数多くの学校の実践に影響を与え、地域に根差した大学として地域に対して大きな役割を果たしていることとなる。大学院内部での授業改善やカリキュラム改善にとって有効なツールが開発できたことだけでなく、香川県のスタンダードを開発し、香川大学の価値を高めたという点で「(Ⅳ) 計画を上回って実施している」と判断した。
- ②①の試案をもとに、「カリキュラム開発・授業開発の基本的な考え方」を定めた。加えて、文部科学省委託事業「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の成果をカリキュラム開発・授業開発に生かし、授業「自律的学校経営と学校組織」や「開かれた学校づくりと多職種連携」等のシラバスを大幅に修正できた。成果を生かしたカリキュラム改善・授業改善の実施は令和6年度からとなるが、モデル事業の成果を盛り込んだシラバスが作成できたことで、これから運用されることになる最先端の研修奨励システムを授業の中で取り上げることができるようになる。とくに現職教職員院生にとっては、1年の学修期間が終わり学校現場に戻った際に、この最先端の成果をもとに校内においてミドルリーダーとして実践を進めることができる。モデル事業によってアプリが開発されていなければ、令和6年度用のシラバス修正はかなり限定的な内容になっていたことを踏まえ、「(Ⅳ) 計画を上回って実施している」と判断した。

令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>1 社会との共創</p> <p>(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①</p>
中期計画	<p>1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、計画を十分に実施していると評価した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの実施件数
 (令和9年度における実施件数を令和3年度実績(60件)と比べて10%増加)



b. 地域と連携した学生参加型実践教育プログラムの参加学生数（令和9年度における参加学生数を令和3年度実績(1,040人)と比べて15%増加)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>1 社会との共創</p> <p>(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①</p>
中期計画	<p>1-1 地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>学生参加型実践教育プログラムの実施件数及び参加人数のいずれについても、目標値を上回ったこと、「地域活動MAP」の更新が、適切に実施されている等の実績から、計画を十分に実施していると評価した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和5年度 実施内容)

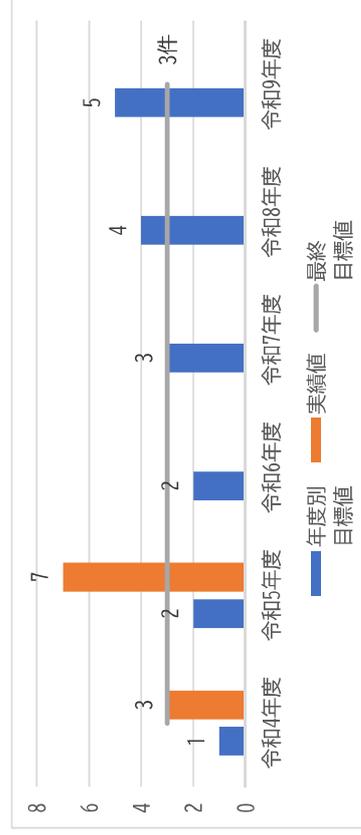
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程し、いただいた提案・意見を令和6年度の計画に反映させる。

令和5年度 自己点検・評価結果について

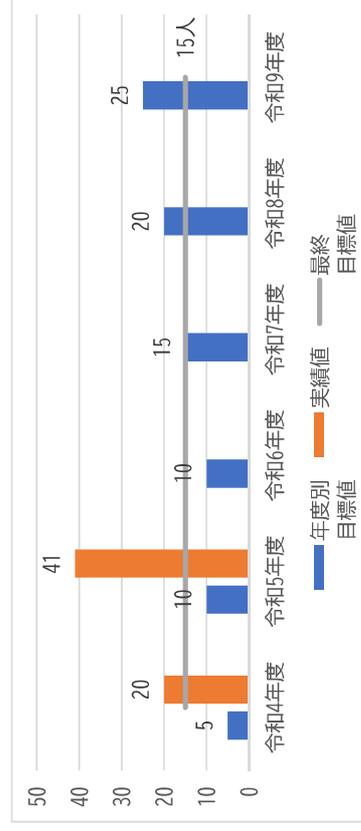
中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>1 社会との共創</p> <p>(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①</p>
中期計画	1-2 地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、計画を十分に実施していると評価した。

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題解決指向型共創プロジェクトの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)



b. 地域課題解決指向型共創プロジェクトに参加した教職員数
(第4期中に新たにプロジェクトに参加した教職員数15人以上(延べ数))



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>1 社会との共創</p> <p>(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①</p>
中期計画	<p>1-2 地域社会における課題解決や持続的な活気づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>地域課題解決指向型共創プロジェクトの新規実施件数及び参加人数のいずれについても目標値を上回ったこと、引き続き産業界、自治体と連携した事業実施を推進している等の実績から、計画を十分に実施していると評価した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

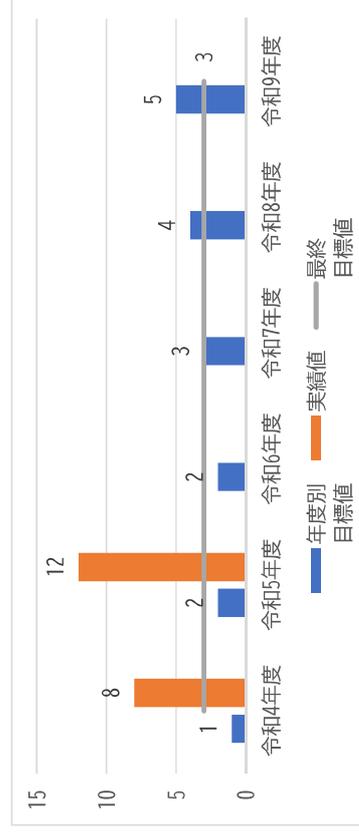
(令和5年度 実施内容)
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、令和6年度の計画に反映させる。

令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>1 社会との共創</p> <p>(1) 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①</p>
中期計画	<p>1ー3 SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定するとともに、活動経費の支援を行い、地域課題の解決に資する取組を推進する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>学長戦略経費を用いて地域課題解決に繋がるSDGsの取組を後押しする「SDGs加速推進経費（地域課題解決型）」の学内公募制度を実施したことから、取組7件（新規4件、継続3件）を選考し財政支援を行ったことから、計画を十分に実施していると評価した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域課題の解決に資するSDGsの取組の実施件数
(第4期中に新たに実施した件数3件以上)



b. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和5年度 実施内容)

①教職員・学生の取組み等について、随時Webで公開するとともに、SDGsアクションプランにおいて3つの重点領域とそれに繋がる推進課題・推進プロジェクトとして設定した事業について、令和4年度の取組内容及び令和5年度の実施計画をとりまとめ、こちらもWebにて公開している。

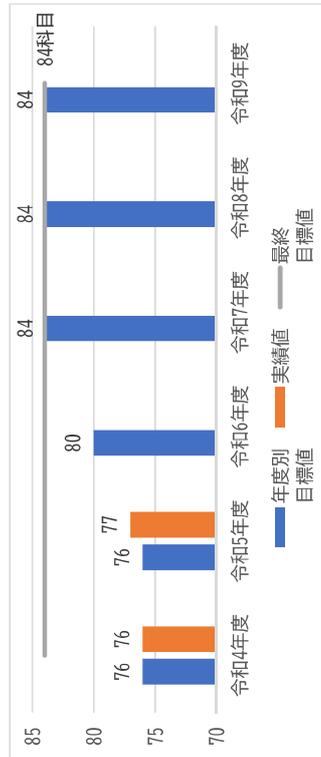
②上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、R6年度の計画に反映させる。

令和5年度 自己点検・評価結果について

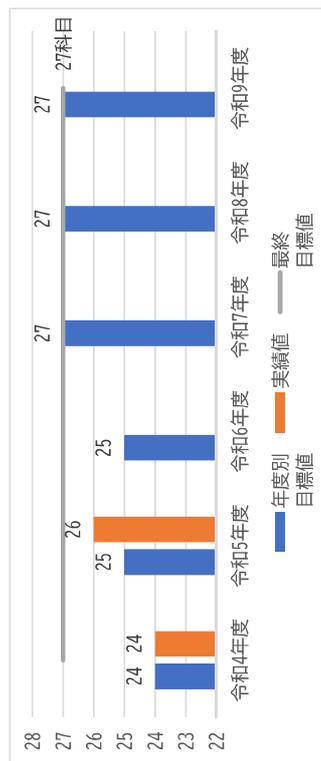
中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程) ⑥</p>
中期計画	<p>1-1 特定の専攻分野はもとより、学士課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDR1(デザイン思考、リスクマネジメント教育、インフォマテイクス(教理・情報基礎))教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 改善事項・改善計画	<p>a : D科目、R科目、I科目のすべてにおいて、年度ごとの目標値を上回っている。</p> <p>b : 7月31日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマテイクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、全学生を許容できる体制を整えて実施することができたと言える。加えて、アセスメントテスト合格者、成績上位者にたいしてオープンバッジを授与する仕組みを整えた。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-1. D科目に係る授業科目数 (令和9年度の科目数を令和4年度の科目数(76科目)と比べて10%増加)



a-2. R科目に係る授業科目数 (令和9年度の科目数を令和4年度の科目数(24科目)と比べて10%増加)

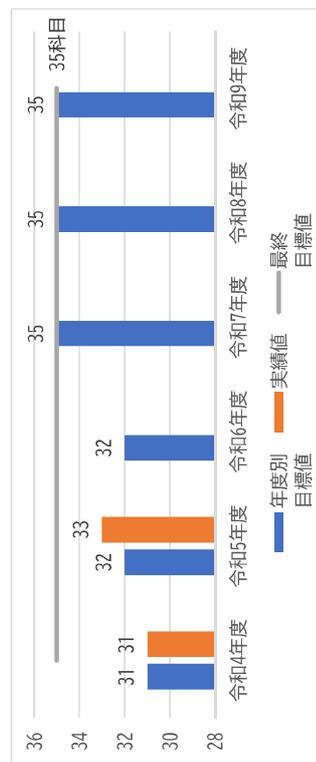


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程) ⑥</p>
中期計画	<p>1-1 特定の専攻分野はもとより、学士課程教育全体を通じて、課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるため、特に本学が力を入れて取り組んでいるDRI（デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス（教理・情報基礎））教育を拡充するとともに、学修成果の可視化に取り組む。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 改善事項・改善計画	<p>a：D科目、R科目、I科目のすべてにおいて、年度ごとの目標値を上回っている。</p> <p>b：7月31日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行った。1年次生の受験率は約9割であり、全学生を許容できる体制を整えて実施することができたと言える。加えて、アセスメントテスト合格者、成績上位者にたいしてオープンバッジを授与する仕組みを整えた。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-3. I科目に係る授業科目数 (令和9年度の科目数を令和4年度の科目数(31科目)と比べて10%増加)



b. DRI教育のアセスメントテスト等を実施することにより、その学修成果を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については第3期中に作成したアセスメントテストを令和4年度から実施する。令和5年度にポートフォリオシステムに反映する。

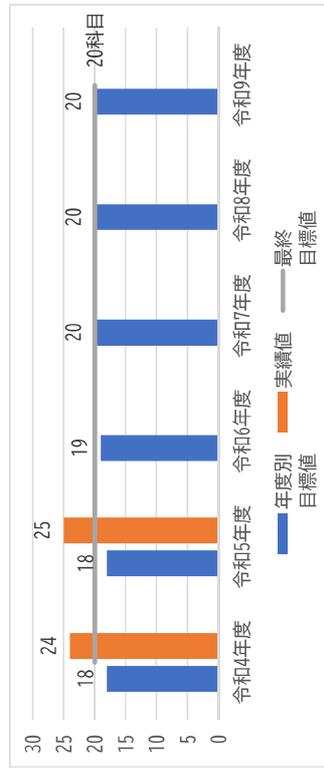
(令和5年度 実施内容)
 上半期の成果として、7月31日にデザイン思考教育、リスクマネジメント教育、インフォマティクス教育のアセスメントテストを行ったことが挙げられる。1年次生の受験率は約9割であり、全学生を許容できる体制を整えて実施することができたと言える。
 また、アセスメントテスト合格者、成績上位者にたいしてオープンバッジを授与する仕組みを整えた。
 下半期においては、次年度の実施に向けた準備を行った。今年度は原則として幸町キャンパスでの一斉実施という形で行ったが、別キャンパスでの実施の可能性も考えたいという学部もあるため、複数キャンパスでの実施が円滑に進むよう準備を整えた。
 また、成果の可視化の前提となる新教務システムが10月から始動させた。新教務システム上での成果の可視化については、教務システムでの運用の安定化をまち、できるだけ早く進めていく予定である。

令和5年度 自己点検・評価結果について

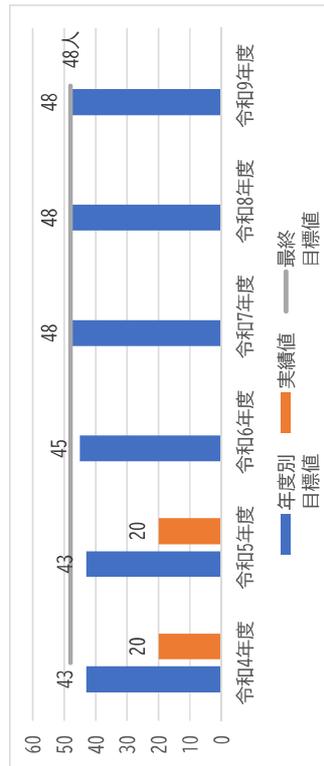
<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程) ⑥</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>(1) 全学共通科目の分野横断型授業科目の数は、目標値を上回っている。</p> <p>(2) 他学部履修科目登録者数は、令和4年度と同値であり、目標値を下回っている。令和6年度以降における数値上昇のために、7月26日開催の全学教務委員会において、①今後、他学部履修の促進を各学部で行うこと、②ネクストプログラム登録者の特例として、1年次から自由単位の枠を使って他学部履修がでさきる制度がまだない学部は、その制度を設ける方向で検討を進めること、この2点について合意を得ている。</p> <p>(3) ネクストプログラム登録者数は、目標値を大きく上回っている。前年度の調査を踏まえて、前期、後期の二回、登録が可能なプログラムについては、後期登録前の勧誘を強化することとした。また、令和6年度は、入学時に対面でのガイダンスを行い、勧誘を強化することとした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-1.異なる分野について学ぶ分野横断型授業科目の授業科目数 (令和9年度実績を令和3年度実績(18科目)と比べて10%増加)



a-2.異なる分野について学ぶ他学部履修科目の履修登録者数 (高度教養教育科目を含む) (令和9年度実績を令和3年度実績(43人)と比べて10%増加)



令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (1) 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探求するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程) ⑥</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-2 特定の専攻分野以外の知見にも触れることで幅広い教養を身に付けさせるため、学士課程教育全体を通じて異なる分野について学ぶ機会を拡充する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>(1) 全学共通科目の分野横断型授業科目の数は、目標値を上回っている。 (2) 他学部履修科目登録者数は、令和4年度と同値であり、目標値を下回っている。令和6年度以降における数値上昇のために、7月26日開催の全学教務委員会において、①今後、他学部履修の促進を各学部で行うこと、②ネクストプログラム登録者の特例として、1年次から自由単位の枠を使って他学部履修ができる制度がまだない学部は、その制度を設ける方向で検討を進めること、この2点について合意を得ている。 (3) ネクストプログラム登録者数は、目標値を大きく上回っている。前年度の調査を踏まえて、前期、後期の二回、登録が可能なプログラムについては、後期登録前の勧誘を強化することとした。また、令和6年度は、入学時に対面でのガイダンスを行い、勧誘を強化することとした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 異なる分野について学部副専攻型特別教育プログラム（ネクストプログラム）の履修登録者数（令和9年度実績を令和3年度実績（349人）と比べて10%増加）

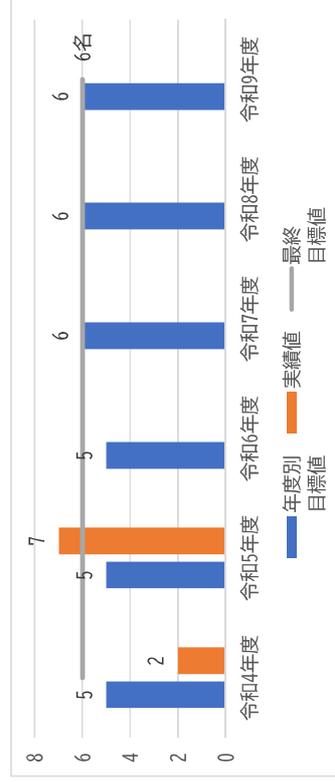


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>
中期計画	<p>2-1 国際学会や全国学会での発表を促進するための取り組みを強化し、博士課程への進学を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>「b. 博士課程進学者数」については、7名であった。10月27日に開催された博士フェスティバルでは、アンケートに回答した学生27名のうち20名が、本イベントを通じて博士課程への進学の意向が高まった、またはどちらかといえば高まったと回答した。</p> <p>※a)については令和6年度より評価指標変更 なお、令和5年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、計2回(令和5年9月27日、令和6年3月13日)の学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ10名(創薬9名、農1名)及び42名(創薬25名、医1名、農15名、教1名)の大学院生に対して表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. 博士課程進学者数 (令和9年度実績 (令和9年度修士課程修了者の令和10年4月博士課程進学者数) を令和2年度実績 (令和2年度修士課程修了者の令和3年4月博士課程進学者数：5名) と比べて20%増加)

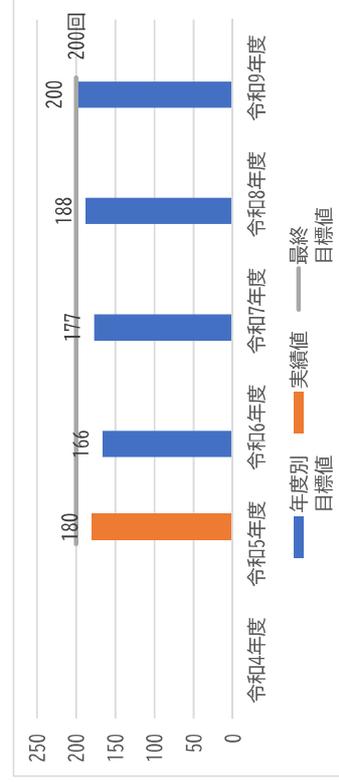


令和5年度 自己点検・評価結果について

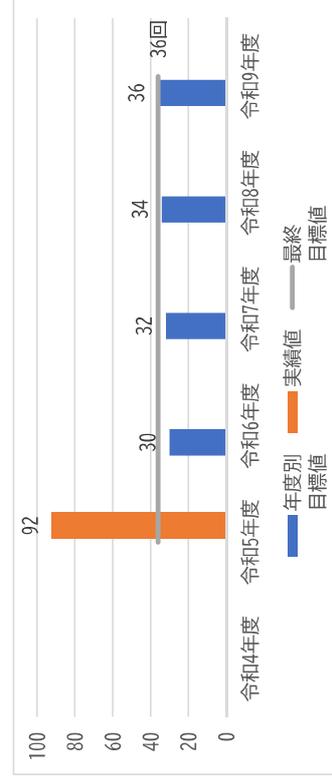
中期目標	<p>I 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>
中期計画	<p>2-1 国際学会や全国学会での発表を見据えた高度な研究能力を身に付けた人材を養成する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p> <p>「b. 博士課程進学者数」については、7名であった。10月27日に開催された博士フェスティバルでは、アンケートに回答した学生27名のうち20名が、本イベントを通じて博士課程への進学の意向が高まった、またはどちらかといえば高まったと回答した。</p> <p>※a1については令和6年度より評価指標変更 なお、令和5年度については、令和4年度に制定した「香川大学学術研究活動表彰」に基づき、国際学会及び全国学会で発表した学生に対し、計2回（令和5年9月27日、令和6年3月13日）の学術研究活動表彰式を実施した。それぞれ10名（創薬9名、農1名）及び42名（創薬25名、医1名、農15名、教1名）の大学院生に対して表彰を行うなど、学生の国際学会及び全国学会での発表数を増加させるために必要な方策を実施している。</p>

(参考) 変更後の評価指標について

a-1. 修士課程学生の全国学会での発表数
 (令和9年度実績を令和2年度実績(133回)と比べて50%増加。)



a-2. 修士課程学生の国際学会での発表数
 (令和9年度実績を令和2年度実績(24回)と比べて50%増加。)



令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>
<p>中期計画</p>	<p>2-2 修士課程におけるDRI(デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス(数理・情報基礎))教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 /改善事項・改善計画</p>	<p>a) については、コンベンション数のR5年度の目標値はクリアできなかったものの、総数では昨年度を下回る結果となった。その要因の1つには、「創発の実践」の受講者が昨年度よりも大きく減少したことがあげられる。応募者のすそ野の拡大に向け、当該授業の内容および実施方法・日程等を見直し、受講者増に向けて学生への周知をはかっていく。 b) については、創発科学研究科で学士課程のアセスメントテスト(DRI検定)を採用する形で実施し、15名が受験した。学士課程用のテストを大学院でも利用することに一定のめどは立ったが、サンプルが限定的であったため、さらにデータの蓄積をはかる必要がある。R6年度においては、より多くの学生に受験してもらえよう、周知をはかっていく。また、得られたデータの分析を通して、当該アセスメントテストの大学院での本格利用に向けての検討(課題の整理等)を行うこととする。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. ビジネスモデル提案型や政策プラン提言型のコンペティション等への応募件数(令和9年度実績で5件以上)



令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (2) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>
<p>中期計画</p>	<p>2-2 修士課程におけるDRI(デザイン思考、リスクマネジメント、インフォマティクス(数理・情報基礎))教育の拡充及び学修成果の可視化を通じ、企画力、情報発信力、課題発見・解決力を身に付けた高度な実践的能力を有する人材を養成する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>a) については、コンベ応募者数のR5年度の目標値はクリアできなかったものの、総数では昨年度を下回る結果となった。その要因の1つには、「創発の実践」の受講者が昨年度よりも大きく減少したことがあげられる。応募者のすそ野の拡大に向け、当該授業の内容および実施方法・日程等を見直し、受講者増に向けて学生への周知をはかっていく。 b) については、創発科学研究科で学士課程のアセスメントテスト(DRI検定)を採用する形で実施し、15名が受験した。学士課程用のテストを大学院でも利用することに一定のめどは立ったが、サンプルが限定的であったため、さらにデータの蓄積をはかる必要がある。R6年度においては、より多くの学生に受験してもらえよう、周知をはかっていく。また、得られたデータの分析を通して、当該アセスメントテストの大学院での本格利用に向けての検討(課題の整理等)を行うこととする。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. アンケート調査やアセスメントテスト等を実施し、高度な実践的能力の基盤となるDRI能力を可視化する。デザイン思考教育については第4期開始時に指標を検討し、リスクマネジメント教育とインフォマティクス教育については令和4年度に作成したアセスメントテストを令和5年度から実施する。

(令和5年度 実施内容)

本年度は、試行的な取り組みとして、学士課程で実施しているアセスメント(DRI検定)を採用して創発科学研究科の学生15人に受験してもらった。その結果、「デザイン思考」と「インフォマティクス」で12人、「リスクマネジメント」で13人が合格水準をクリアした。スコアの分析の結果、平均得点は大学院生のほう学部生を上回っていた。本年度の試行により、DRI能力の可視化において、大学院版として新たなテストを開発するのではなく、学士課程のものを利用することに特段の問題がないことが確認できた。しかしながら、受験者数が限定的であったため、本格的な利用においては、さらなるデータの蓄積が必要となる。R6年度には、受験者の増加を目指した広報活動を積極的に行い、得られたデータの分析を通して、当該アセスメントテストの大学院での本格利用に向けての検討(課題の整理等)を行うこととする。

令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)②</p>
<p>中期計画</p>	<p>3-1 教育学研究科では、「令和の日本型学校教育」に資する次世代の教員を育成するために、学校教育現場との連携を一層深め、①学校マナジメントに関する資質・能力の強化、②多様化する幼児・児童・生徒に対応した個別最適な学びを表現する指導力の強化に重点を置いた、授業やカリキュラムの改善に取り組む。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(IV) 計画を上回って実施している</p>
<p>達成状況・成果 改善事項・改善計画</p>	<p>①兵庫教育大学（フラッグシップ大学）の取り組みに関して、重点的に視察を行い、本学の改革に向けての示唆を得るとともに、「新たな時代に求められる教師の資質・能力分類表（試案）」を策定したことに加え、文部科学省委託事業「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の取組として、資質・能力分類表（試案）をモデル開発のアプリに搭載した。これにより資質・能力分類表（試案）が、アプリに基づく研修奨励システムの中核となり、数多くの学校で実践されることとなるなど、香川県の小・中・高における研修奨励システムのスタンダードとなる。このことは、県全体の数多くの学校の実践に影響を与え、地域に根差した大学として地域に対して大きな役割を果たしていることとなる。大学院内部での授業改善やカリキュラム改善にとつて有効なツールが開発できたことだけでなく、香川県のスタンダードを果たしていることとなる。大学院で「(IV) 計画を上回って実施している」と判断した。</p> <p>②①の試案をもとに、「カリキュラム開発・授業開発の基本的な考え方」を定めた。加えて、文部科学省委託事業「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の成果を生かしたカリキュラム開発・授業開発に生かし、授業「自律的学習経営と学校組織」や「開かれた学校づくりと多職種連携」等のシラバスを大幅に修正された。成果を生かしたカリキュラム開発・授業開発の実施は令和6年度からとなるが、モデル事業の成果を盛り込んだシラバスが作成できたことで、これらから運用されることになる最先端の研修奨励システムを授業の中で取り上げることができるようになる。とくに現職教職員院生にとっては、1年の学修期間が終わり学校現場に戻った際に、この最先端の成果をもとに校内においてミドルリーダーとして実践を進めることができる。モデル事業によってアプリが開発されないければ、令和6年度用のシラバス修正はかかなり限定的な内容になっていったことを踏まえ、「(IV) 計画を上回って実施している」と判断した。</p> <p>③一部の授業において試行的に授業改善を実施した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 「令和の日本型学校教育」に求められる資質・能力の分類表を作成し、それに基づく授業やカリキュラムの改善及び履修カルテの作成を令和6年度までに実施する。

(令和5年度 実施内容)

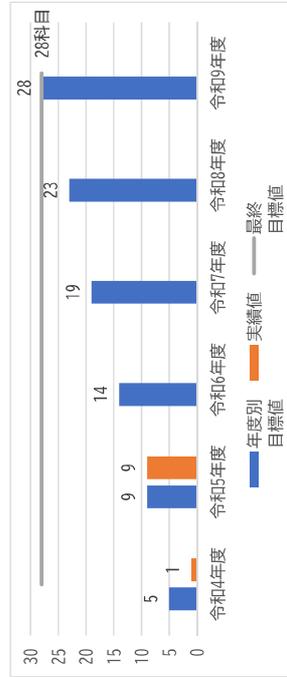
- ①まず昨年年度十分に視察に行けなかった兵庫教育大学（フラッグシップ大学）の取り組みに関して、重点的に視察を行い、本学の改革に向けての示唆を得た。特に、ICTや教育情報の活用分野での授業科目の配置が充実しており、本学において如何に充実させるべきか様々な検討を行った。令和5年1月に、香川県教育委員会は香川県教員等人材育成方針を発表した。この方針策定には、本学教職大学院の専攻長も参画していた。兵庫教育大学などのフラッグシップ大学の取り組みを参考に審議を重ね、「新たな時代に求められる教師の資質・能力分類表（試案）」を策定した。
- ②この試案をもとに、「カリキュラム開発・授業開発の基本的な考え方」を定め、令和6年度にカリキュラム改善・授業改善に取り組む。加えて、文部科学省委託事業「教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の成果を生かしたカリキュラム改善・授業改善を実施する。
- ③一部の授業において試行的に授業改善を実施した。

令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程)⑨</p>
中期計画	<p>3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>評価指標全体(a~d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。しかし新規授業科目についての検討に時間を要しており、今後、実現に向けて、研究科内での検討を進める。そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、公開での実施や、修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容について修正を加え、新規授業科目化を模索していく。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-1, 新規開設等した授業科目数(第4期の総数を第3期末績(27科目)と比べて増加)



a-2, 新規開設等した教育プログラム数(第4期の総数を第3期末績(30件)と比べて増加)

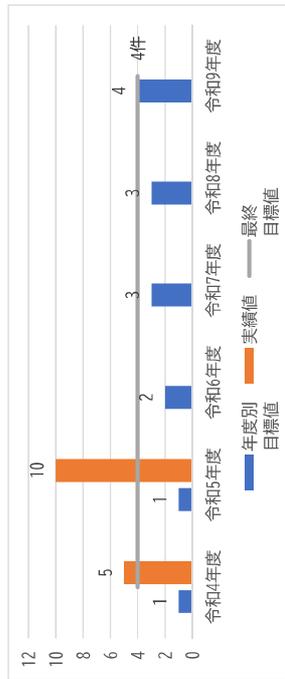


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨</p>
中期計画	<p>3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>評価指標全体(a~d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。</p> <p>しかし新規授業科目についての検討に時間を要しており、今後、実現に向けて、研究科内での検討を進める。</p> <p>そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、公開での実施や、修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容について修正を加え、新規授業科目化を模索していく。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-3. 新規開設等した実践的なテーマのプロジェクト研究数 (第4期の総数を第3期実績(3件)と比べて増加)



b-1. 新規開設等した授業科目の受講者数 (第4期の総数を第3期実績(363名)と比べて増加)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨</p>
中期計画	<p>3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>評価指標全体(a~d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。</p> <p>しかし新規授業科目についての検討に時間を要しており、今後、実現に向けて、研究科内での検討を進める。</p> <p>そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、公開での実施や、修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容について修正を加え、新規授業科目化を模索していく。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b-2, 新規開設等した教育プログラムの受講者数
(第4期の総数を第3期実績(978名)と比べて増加)



b-3, 新規開設等した教育プログラムの連携協力企業・行政等の組織数
(第4期の総数を第3期実績(48件)と比べて増加)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨</p>
中期計画	<p>3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>評価指標全体(a~d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。しかし新規授業科目についての検討に時間を要しており、今後、実現に向けて、研究科内での検討を進める。そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、公開での実施や、修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容について修正を加え、新規授業科目目録を模索していく。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c-1. 修了生の取組に対する支援の数
(第4期の総数を第3期実績(50件)と比べて増加)



c-2. 修了生による講義数
(第4期の総数を第3期実績(9件)と比べて増加)

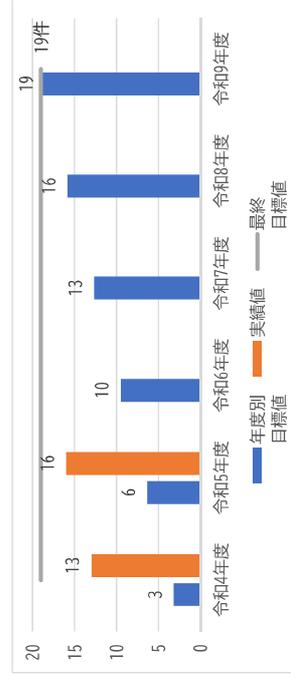


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育 (3) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程) ⑨</p>
中期計画	<p>3-2 地域マネジメント研究科においては、地域・社会課題を素材とした実践型教育プログラムを充実させて、幅広く社会人大学院生を受け入れ、広域的な人材交流や修了生の活動を促進するエコシステムの創造を通して、キャリアアップだけでなく、起業、新規事業、キャリアアチェンジを含む柔軟なキャリア形成を実現し、地域活性化に貢献する高度専門職業人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>評価指標全体(a~d)について、おおむね、計画を上回る進捗実績で推移している。 しかし新規授業科目についての検討に時間を要しており、今後、実現に向けて、研究科内での検討を進める。 そのためにも新規教育プログラムについて、アントレプレナーシップ育成関連を中心に、公開での実施や、修了生の巻き込みにより注力していくとともに、実施結果を振り返り、内容について修正を加え、新規授業科目化を模索していく。</p>

(参考) 評価指標達成状況

d. 実現した新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数(第4期の総数を第3期実績(新規事業、起業、組織間連携による事業、地域活性化に資するビジネス・事業・部門部署で活躍する修了生の総件数18)と比べて増加)



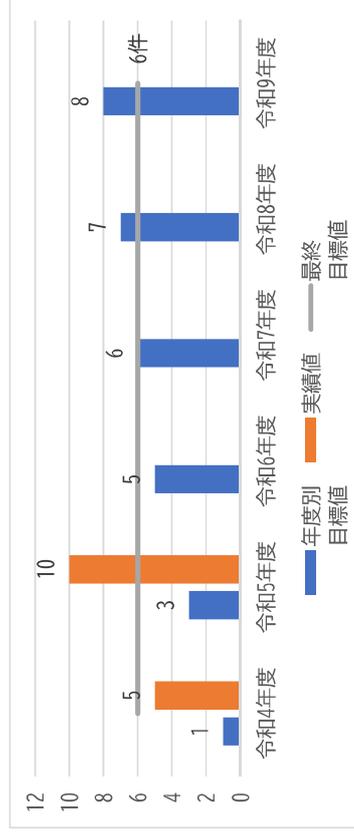
令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、教理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。①</p>
中期計画	4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に対応するため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。
令和5年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	新規の専門リカレント講座を5つ実施したこと、受講者総数は延べ138名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、計画を上回って実施していると評価した。

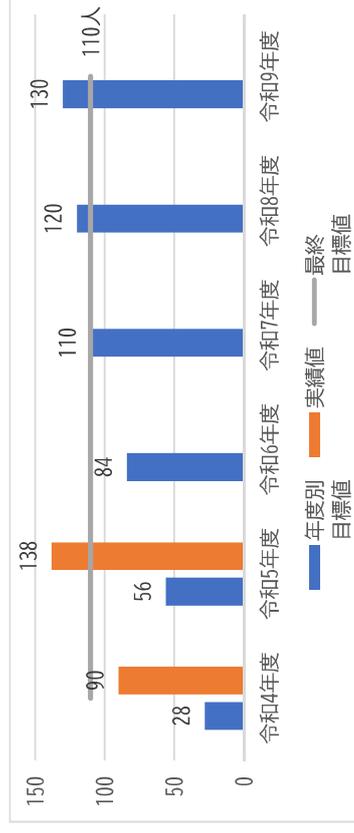
-40-

(参考) 評価指標達成状況

a. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの実施件数
(第4期中に新たに実施した件数6件以上)



b. 新たなリカレント・リスキリングプログラムの受講者数
(第4期中に新たに実施したプログラムの受講者数110人以上(延べ数))



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項</p> <p>2 教育</p> <p>(4) データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。①</p>
中期計画	<p>4-1 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に対応するため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(IV) 計画を上回って実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>新規の専門リカレント講座を5つ実施したこと、受講者総数は延べ138名に達し、いずれも目標値を上回る実績が得られたこと、受講者の高い評価が得られたことなどから、計画を上回って実施していると評価した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c. 可視化した実績データに基づく地域関係者による外部評価を毎年度実施し、評価結果を公表する。

(令和5年度 実施内容)
上記の実績をとりまとめ、諮問会議に上程する予定としており、令和6年度の計画に反映させる。

令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬</p>
<p>中期計画</p>	<p>5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 改善事項・改善計画</p>	<p>D&I活動計画に基づき、バリアフリー支援室、留学生センター、保健管理センター、関係する部署等と連携し、施策を実施している。 ・R5年度はD&Iに関する全学調査vol.2を実施した。 調査内容については、定常調査用の設問事項に加え、ガイドラインの区分に合わせて、男女共同参画、性の多様性の尊重、障害者支援、多文化共生の4分野において、差別的な体験の見聞さや相談窓口利用の有無などの設問を追加し、D&Iの課題抽出ができるように改訂した。調査結果を整理・分析し、施策に反映した。具体的には、R5年度の調査結果では障害者支援に関する課題が多く出たので、D&Iフェスタのテーマを「障害者支援」としてセミナー等を実施した。 諮問会議では、「教職員の研修受講経験の少なさ」の指摘があったため、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとともに、「D&I」を認知してもらえるように改善した。 また、アンケート等において学内の研究費公募事業における申請要件見直しについての要望（若手研究者を対象とした公募について、育児休業の取得等により年齢要件の対象外となってしまう等）があったため、関係部署に要望を出し改善の措置がなされた。 ・R5年度もD&I関連科目として、全学共通科目で2科目開講するなど、D&Iについて学生に学ぶ機会を提供し、延べ178名の学生が受講した。また、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとし、R5年度は、「性の多様性」をテーマに、オンライン及びオンデマンド配信により実施し、延べ297名の教職員が受講した。 ・各部署・部署が実施しているD&I推進の取り組みを取りまとめ、「香川大学D&I推進ムーブメント」としてHPに公表し、見える化を図った。 ・D&I推進のためのガイドラインについては、見直しを行い、改訂した。 ・D&I学生プロジェクトは、D&Iフェスタでの中間報告を踏まえ、次年度、具体化へ向けて検討を進めている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度にダイバーシティ推進のためのガイドライン及び活動計画を策定するとともに、令和5年度から活動計画の進捗状況を外部の有識者により検証し、検証結果に基づき改善状況を公表する。

(令和5年度 実施内容)

D&I活動計画に基づき、バリアフリー支援室、留学生センター、保健管理センター、関係する部署等と連携し、施策を実施している。

- ①D&Iに関する全学調査vol.2を実施し、調査結果を整理・分析し、公表した。
- ②D&I関連科目として、全学共通科目で2科目開講するなど、D&Iについて学生に学ぶ機会を提供し、延べ178名の学生が受講した。
- また、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとした。今年度は、「性の多様性」をテーマに、オンライン及びオンデマンド配信により実施し、延べ297名の教職員が受講した。
- ③各部署・部署が実施しているD&I推進の取り組みを取りまとめ、「香川大学D&I推進ムーブメント」としてHPに公表し、見える化を図った。

また、諮問会議では、「教職員の研修受講経験の少なさ」の指摘があったため、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとともに、「D&I」を認知してもらえるように改善した。

令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬</p>
<p>中期計画</p>	<p>5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティを推進し、多様性に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 改善事項・改善計画</p>	<p>D&I活動計画に基づき、バリアフリー支援室、留学生センター、保健管理センター、関係する部署等と連携し、施策を実施している。 ・R5年度はD&Iに関する全学調査vol.2を実施した。 調査内容については、定点調査用の設問事項に加え、ガイドラインの区分に合わせて、男女共同参画、性の多様性の尊重、障害者支援、多文化共生の4分野において、差別的な体験の見聞きや相談窓口利用の有無などの設問を追加し、D&Iの課題抽出ができるように改訂した。調査結果を整理・分析し、施策に反映した。具体的には、R5年度の調査結果では障害者支援に関する課題が多く出たので、D&Iフェスタのテーマを「障害者支援」としてセミナー等を実施した。 諮問会議では、「教職員の研修受講経験の少なさ」の指摘があったため、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとともに、「D&I」を認知してもらえるように改善した。 また、アンケート等において学内の研究費公募事業における申請要件見直しについての要望（若手研究者を対象とした公募として、育児休業の取得等により年齢要件の対象外となってしまう等）があったため、関係部署に要望を出し改善の措置がなされた。 ・R5年度もD&I関連科目として、全学共通科目で2科目開講するなど、D&Iについて学生に学ぶ機会を提供し、延べ178名の学生が受講した。また、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けることとし、R5年度は、「性の多様性」をテーマに、オンライン及びオンデマンド配信により実施し、延べ297名の教職員が受講した。 ・各部署・部署が実施しているD&I推進の取り組みを取りまとめ、「香川大学D&I推進ムーブメント」としてHPに公表し、見える化を図った。 ・D&I推進のためのガイドラインについては、見直しを行い、改訂した。 ・D&I学生プロジェクトは、D&Iフェスタでの中間報告を踏まえ、次年度、具体化へ向けて検討を進めている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. 教職員や学生に対するダイバーシティへの理解度や活動の効果測定するアンケート調査を毎年実施し、アンケート結果及び結果に基づく改善状況を公表する。

(令和5年度 実施内容)
今年度はD&Iに関する全学調査vol.2を実施した。
定点調査用の設問事項に加え、ガイドラインの区分に合わせて、男女共同参画、性の多様性の尊重、障害者支援、多文化共生の見聞きや相談窓口利用の有無などの設問を追加し、D&Iの課題抽出ができるように改訂した。
調査結果を整理・分析し、施策に反映した。具体的には、R5年度の調査結果では障害者支援に関する課題が多く出たので、D&Iフェスタのテーマを「障害者支援」としてセミナー等を実施した。
諮問会議では、「教職員の研修受講経験の少なさ」の指摘があったため、R5年度から「D&I研修」として、定期的にD&Iに関するテーマでの学びの機会を設けるとともに、また、アンケート等において学内の研究費公募事業における申請要件見直しについての要望（若手研究者を対象とした公募として、育児休業の取得等により年齢要件の対象外となってしまう等）があったため、関係部署に要望を出し改善の措置がなされた。

令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬</p>
<p>中期計画</p>	<p>5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>4月に日本政府が水際対策を解除したことから同月に本学の渡航制限を解除し、渡航渡日を伴う国際交流がコロナ禍以前のとおり実施できるようになった。海外開催の国際シンポジウム出席や教育研究交流など活発な交流が再開された。8月には本学にて本学・チェンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面・オンライン合わせて234名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、トビタテ！留学JAPAN等、学外の派遣事業にも積極的に応募し採用され、国際交流を活発に行つて、目標値を上回る留学生の受入数・本学学生の海外派遣者数を達成した。不安の影響や航空券の高騰に伴つてプログラム実施が妨げられることがないよう今後も派遣支援の充実を図り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をすめるものである。</p> <p>コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。</p> <p>BEVITテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-1. 受入留学生数 (令和9年度未実績を第3期平均265名と比べて30%増加)



a-2. 派遣日本人学生数、海外研修・海外インターンシップ参加学生数 (令和9年度未実績を第3期平均171名と比べて30%増加)

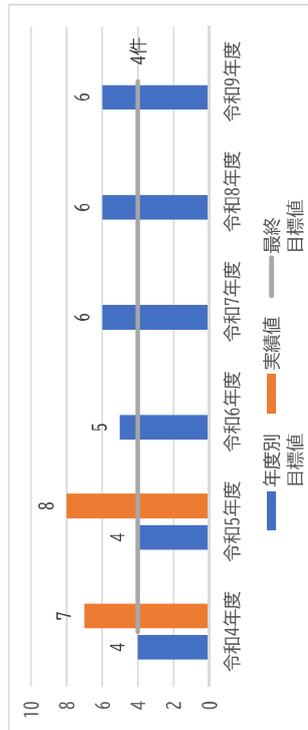


令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>1 教育研究の質の向上に関する事項 2 教育 (5) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬</p>
<p>中期計画</p>	<p>5-2 学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>4月に日本政府が水際対策を解除したことから同月に本学の渡航制限を解除し、渡航渡日を伴う国際交流がコロナ禍以前のおり実施できるようになった。海外開催の国際シンポジウム出席や教育研究交流など活発な交流が再開された。8月には本学にて本学・チエンマイ大学・国立嘉義大学との3大学合同シンポジウムを開催した。対面・オンライン合わせて234名の教職員・学生が参加し、活発な交流が実現したため、今後インターナショナルオフィス及び部局における学生短期交流プログラム等も活発に実施した。また、香川県の学生派遣事業や、トビタテ！留学JAPAN等、学外の派遣事業にも積極的に応募し採用され、国際交流を活発に行つて、目標値を上回る留学生の受入数・本学学生の海外派遣者数を達成した。円安の影響や航空券の高騰に伴つてプログラム実施が妨げられることがないよう今後も派遣支援の充実を図り、プログラム実施については事前研修や説明会を実施して国際交流に関する理解を深める努力をすものである。</p> <p>コロナ禍以前の地域との関係性は途切れることなく連携を継続しており、本学のグローバル教育プログラムの実施に協力をいただいているところである。</p> <p>BEVIテストを実施し実施数が少ないながらも分析結果を得て、留学相談等の参考にしている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. 地域のステークホルダーと大学とが連携して実施するグローバル教育プログラム数（令和9年度未実績を令和3年度未実績3件と比べて30%増加）



c. グローバルな視点からの学生の多様性の理解、交流活動等による理解の変化及び行動変容を評価する仕組みを構築する。

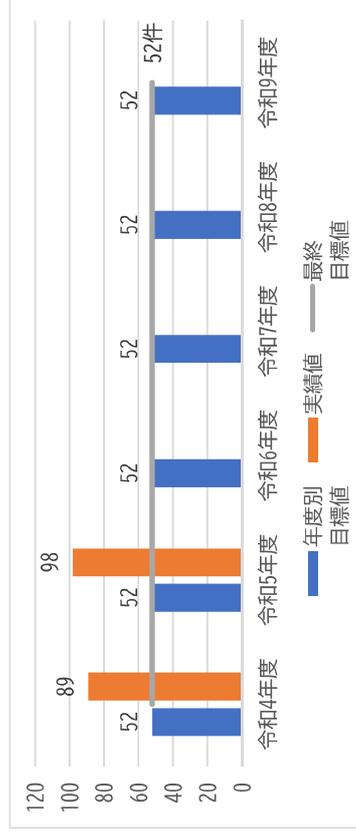
(令和5年度 実施内容)
昨年度マレーシア多文化体験プログラム派遣学生のBEVIテスト受検学生の分析を行い、4/22に実施した事後研修にて報告した。
JASSO採択協定派遣「かいいな」人材育成プログラムの海外派遣学生8名、マレーシア多文化体験プログラムの派遣学生3名にBEVIテストを実施した。

令和5年度 自己点検・評価結果について

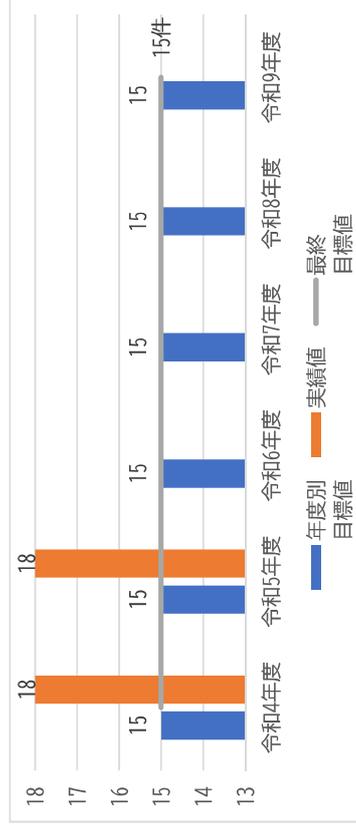
中期目標	<p>3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭</p>
中期計画	<p>1-1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。</p>
令和5年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 重点研究の査読付き論文数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)



b. 知的財産 (研究成果有体物 (マテリアル) を含む) の実施許諾等収入に係る契約件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)

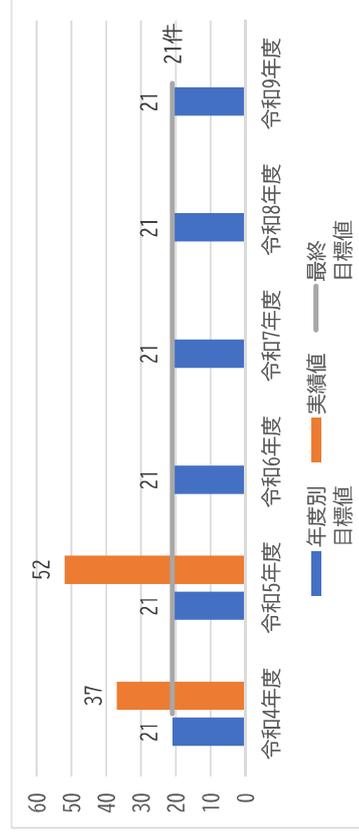


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内発的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1-1 希少糖、微細構造デバイス、次世代通信・環境を支えるマテリアル・システム等、独創性が高く、先導的に展開している研究を、重点研究として定め、卓越性をさらに高める。
令和5年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標を上回る実績を上げており、順調に計画を実施することができたと認められる。

(参考) 評価指標達成状況

c. 招待講演数 (第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加)



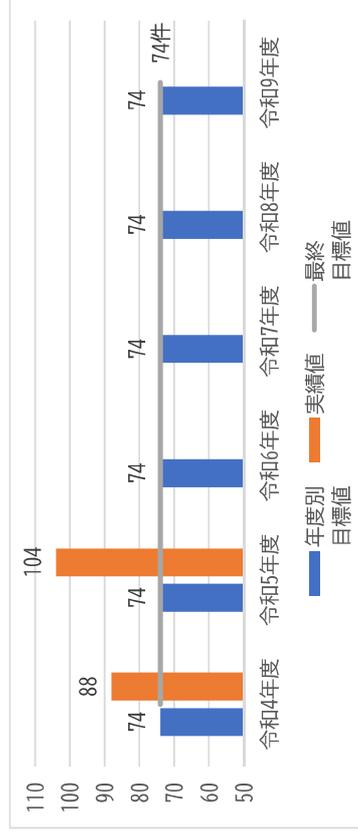
令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭
中期計画	1ー2 地域コミュニティの回復力強化（社会的レジリエンス）、瀬戸内圏の環境・資源、包括的健康イノベーションの創出、資源ゲノム、MaaS（Mobility as a Service）等、継続的なデータ収集に基づく特色ある研究などの、地域社会の課題の解決や資源の持続的な活用に資する研究を推進する。
令和5年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各研究プロジェクトにおいて、目標値を上回る業績を上げており、順調に計画を遂行していると認められる。

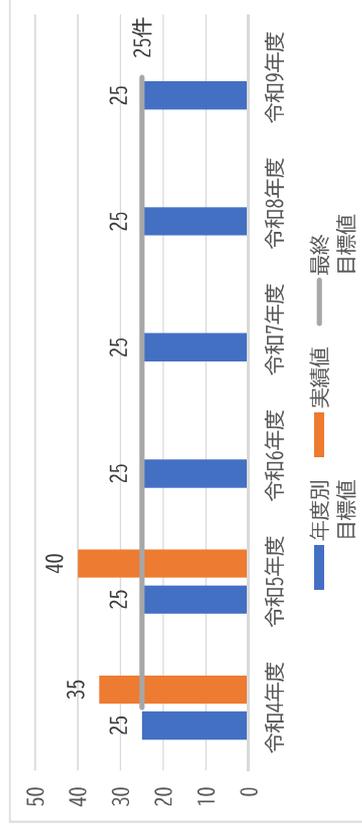
-48-

(参考) 評価指標達成状況

a. 地域社会を対象とした研究の査読付き論文数（第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）



b. 継続的に収集したデータに基づく学術的成果（査読付き論文、書籍等）の数（第4期の平均を第3期平均と比べて10%増加）

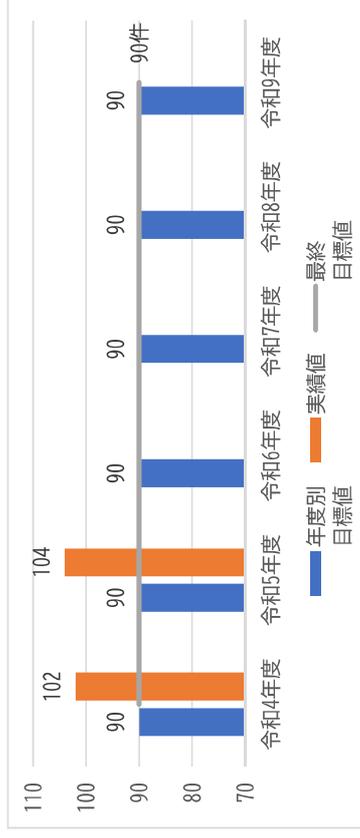


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>3 研究 (1) 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭</p>
中期計画	<p>1-3 分散キャンパスにある研究資源の有効活用と研究の多様化を推進するため、デジタルONE戦略※に基づき、研究設備・機器の共用、研究者のマッチング、研究成果の発信等のシステムを構築し、研究機能を強化する。</p>
令和5年度自己判定	(IV) 計画を上回って実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	各計画において、目標値を上回る業績を上げており、順調に計画を遂行していると認められる。

(参考) 評価指標達成状況

a. 全学の機器共用ネットワークシステムに登録された研究設備・機器の件数 (第4期の平均を第3期平均と比べて20%増加)



b. マッチングシステムによる研究連携の実施数 (第4期中に合計12件以上)



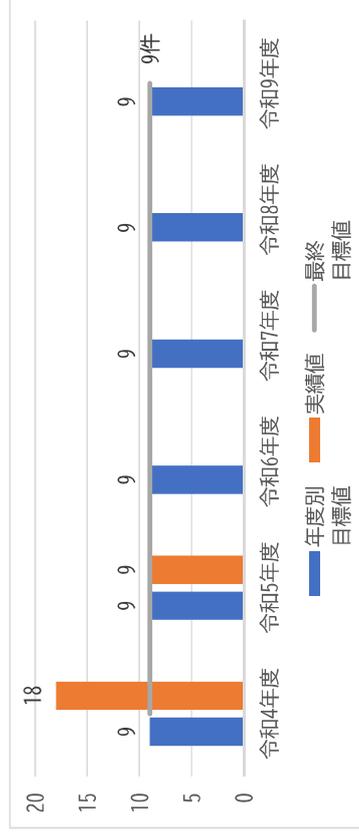
令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>3 研究 (2) 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現表社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮</p>
中期計画	<p>2-1 未来社会を想定したイノベーションの創出に向け、分野を超えた多様な研究者から構成される研究チームを編成し、産官学の連携によって、社会の課題解決や社会実装につながる研究開発を強化する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和5年度の計画を実施し、目標値を達成している。

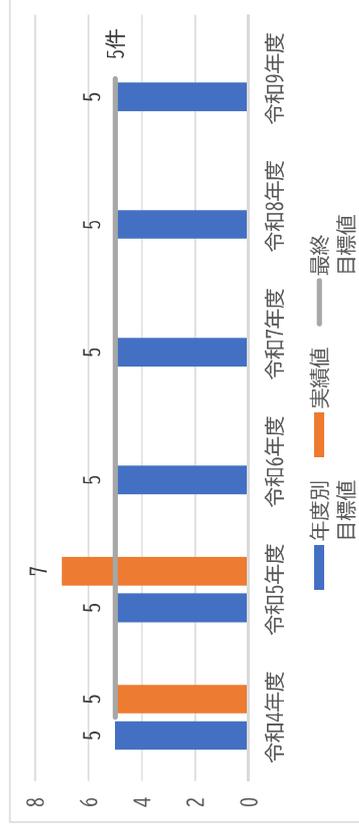
-50-

(参考) 評価指標達成状況

a. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の研究チーム数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)



b. 社会の課題解決や社会実装に係る分野横断型の共同研究・受託研究契約数 (第4期の平均を第3期平均と比べて30%増加)

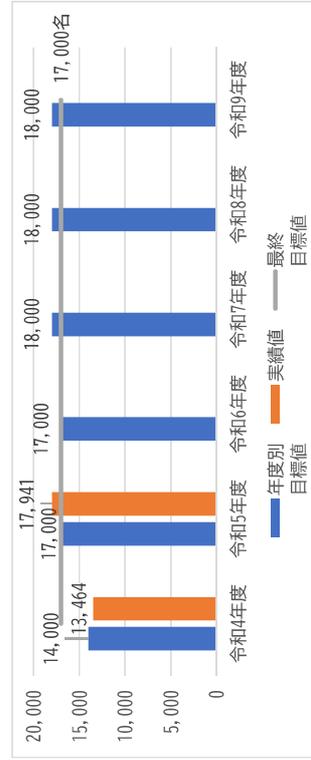


令和5年度 自己点検・評価結果について

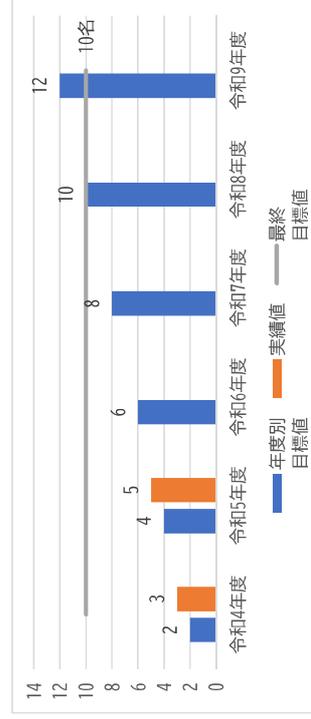
中期目標	<p>4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ②</p>
中期計画	<p>1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>① 令和5年度のスキルスラロボ利用者数は17,941名であり、目標の17,000名を達成することができた。令和6年度から新たにスキルスラロボの管理業務のみを担当するスキルスラロボセンターを開設し、専任の臨床工学技士を置くことで、管理および学生実習・院内研修への関わりを深めることと、スキルスラロボの利用率が増加することが見込まれる。令和4年度末に各診療科に実施したアンケートに基づき、追加のシミュレータを購入配置した。研修場所が重複してシミュレータが使用できない場合も、シミュレータの配置を換えを行うなど、利用しやすいように対応を行った。</p> <p>② 令和5年度は5名（学外4名、院内1名）の特定行為研修受講生を受け入れている。研修を修了し、各行為ごとに指導医の立会い及び具体的な指示のもと特定行為が実施可能な院内のフォローアップ生は来年度1名増となる予定である。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行っている。</p> <p>③ 院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的に実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続している。令和5度は1名が感染症専門医を取得した。</p> <p>上記のとおり、すべての評価指標について目標値を達成しており、自己評価(Ⅲ)とした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. スキルスラロボ(※)研修者数(第4期の年度平均を年間延数17,000人以上)
 (※)医療従事者が各種シミュレーター、手技のトレーニングのための機器を用いて医療技術の練習・習得を行うための施設



b. 特定看護師(特定行為研修及びフォローアップ研修を修了した者)育成数
 (第4期中に合計10名以上)

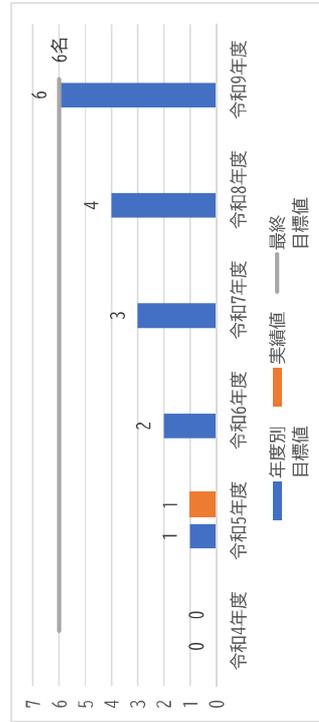


令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ②</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-1 最新の医療に対応できる医療人を育成するために、教育・研修体制を充実させるとともに、感染症教育センターを発展させ、種々の感染症にも対応できる医療人を育成する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>① 令和5年度のスキルストラボ利用者数は17,941名であり、目標の17,000名を達成することができた。令和6年度から新たにスキルストラボの管理業務のみを担当するスキルストラボセンターを開設し、専任の臨床工学技士を置くことで、管理および学生実習・院内研修への関わりを深めると、スキルストラボの利用率が増加することが見込まれる。令和4年度末に各診療科に実施したアンケートに基づき、追加のシミュレータを購入配置した。研修場所が重複してシミュレータが使用できない場合も、シミュレータの配置を換えを行うなど、利用しやすいように対応を行った。 ② 令和5年度は5名（学外4名、院内1名）の特定行為研修受講生を受け入れている。研修を修了し、各行為ごとに指導医の立会い及び具体的な指示のもと特定行為が実施可能な院内のフォローアップ生は来年度1名増となる予定である。県内の関係機関への募集案内配布およびホームページ掲載等、次年度の受講生確保のための広報活動を行っている。 ③ 院内感染症専門医及び院外講師によるセミナー、研修会を定期的に実施している。また、学生、研修医への講義及び院内外でのコンサルテーションも継続して行っている。令和5度は1名が感染症専門医を取得した。</p> <p>上記のとおり、すべての評価指標について目標値を達成しており、自己評価(Ⅲ)とした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c. 感染症分野専門の医療人（医師・看護師等）育成数（第4期中に合計6名以上）

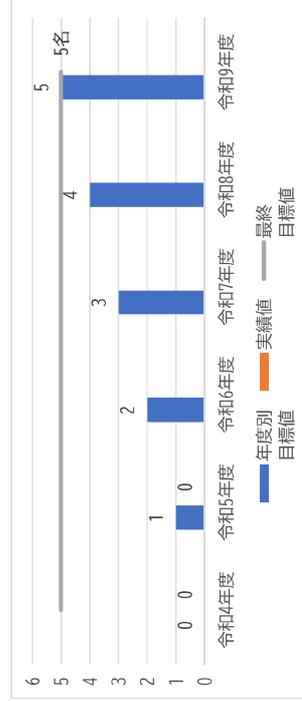


令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>4. その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ④</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>①令和4年度から香川県ドクターヘリが運航を開始し、令和5年度の要請は373件と前年度の361件を上回った。そのうち当院へは196件の要請があり、香川県の救急医療に大きく貢献している。フライトドクターは全診療科よりフライトドクターを育成する体制を継続しており、計画どおりフライトドクター、およびフライトナーズの育成を進めているが、令和5年度中には承認に必要な症例数に達した者はいなかった。しかしながら、現在育成中のフライトドクター0174名のうち3名、フライトナーズ0174名のうち3名が2024年度上半期にそれぞれフライトドクター、フライトナーズとして承認される見込みであり、第4期中の目標達成に向け順調に取り組みを進めている。 ②令和5年度からがんゲノム医療拠点病院ではなくなり、連携病院を設定することができなくなったが、県内の医師会などを訪問し、がんゲノムプロファイルに関する啓発活動を行うことで、がんゲノムプロファイルに関するエキスパートパネルを115件実施した。なお、がんゲノム医療拠点病院ではなくなったことを受けて、ロードマップを変更し、がんゲノムプロファイルに関するエキスパートパネルの件数を増加させることができるよう引き続き啓発活動等を行っている。 ③令和5年5月に新型コロナウイルス感染症がら類感染症に移行し、感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少した。その結果全体数は減少した。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、このような妊婦に対しiCTGを活用した。また、遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトにおいてプータラン王国で現地の25病院およびプータラン医科大学に対してiCTGの研修を行った。今後も新たな応需を開拓するとともに遠隔医療の推進を行う。</p> <p>上記のとおり、すべての評価指標について目標値の達成または達成に向けた取り組みを行い、次年度以降での目標達成を見込むことができる体制を整えられていることから、自己評価(Ⅲ)とした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a-1. フライトドクター育成数 (第4期中にフライトドクター合計5名)



a-2. フライトナーズ育成数 (第4期中にフライトナーズ合計6名)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>4. その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ④</p>
中期計画	<p>1-2 ドクターヘリなどを活用した地域救急医療体制の構築を図るとともに、香川県と連携したがんゲノム診療や高度周産期医療の診療体制を強化し、最善かつ最新の高度医療を提供する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>①令和4年度から香川県ドクターヘリが運航を開始し、令和5年度の要請は373件と前年度の361件を上回った。そのうち当院へは196件の要請があり、香川県の救急医療に大きく貢献している。フライトドクターは全診療科よりフライトドクターを育成する体制を継続しており、計画どおりフライトドクター、およびフライトナースの育成を進めているが、令和5年度中には承認に必要な症例数に達した者はいなかった。しかしながら、現在育成中のフライトドクター0174名のうち3名、フライトナース20174名のうち3名が2024年度上半期にそれぞれフライトドクター、フライトナースとして承認される見込みであり、第4期中の目標達成に向け順調に取り組みを進めている。</p> <p>②令和5年度からがんゲノム医療拠点病院ではなくなり、連携病院を設定することができなくなりましたが、県内の医師会などを訪問し、がんゲノムプロファイルの検査に関する啓発活動を行うことで、がんゲノムプロファイルに関するエキスパートパネルを115件実施した。なお、がんゲノム医療拠点病院ではなくなったことを受けて、ロードマップを変更し、がんゲノムプロファイルに関するエキスパートパネルの件数を増加させることができるよう引き続き啓発活動等を行っている。</p> <p>③令和5年5月に新型コロナウイルス感染症から類感染症に移行し、感染妊婦および感染を危惧する妊婦も減少した。その結果全体数は減少した。しかしながら、コロナウイルスが完全に収束している訳ではなく、医療者の感染予防の目的に遠隔診断が必要な妊婦もあり、このような妊婦に対しiCTGを活用した。また、遠隔医療の体制構築を通じた母子保健強化プロジェクトにおいてプータン王国で現地の25病院およびプータン医科大学に対してiCTGの研修を行った。今後も新たな応需を開拓するとともに遠隔医療の推進を行う。</p> <p>上記のとおり、すべての評価指標について目標値の達成または達成に向けた取り組みを行い、次年度以降での目標達成を見込むことができる体制を整えられていることから、自己評価(Ⅲ)とした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

- b. がんゲノムプロファイル検査(※1)に関するエキスパートパネル(※2)
 件数(年間150件以上 第4期末)
 (※1) がんに関連する遺伝子の変化を複数同時に測定する検査
 (※2) 検査の結果、検出された遺伝子変異に対する生物学的意義付けや対応する薬剤の有無、さらには推奨すべき薬剤や臨床試験の順位付け等を検討するための専門家会議



c. 分娩監視装置iCTGによる妊婦健診件数(第4期の年度平均を5件以上)



令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>4. その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項 (1) 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院) ㉔</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-3 医療安全に関する教育体制をさらに充実させ医療人としてリスク管理意識を高め、患者安全の医療を提供する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p> <p>達成状況・成果 /改善事項・改善計画</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p> <p>①毎月の医療安全管理部員会議、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議において、医師からの報告割合の検証を行い、報告数が増加するように周知を行った。影響度の低いものの報告が少ない傾向であったが、医師からのインシデント報告は、前年度に比し影響度レベル0からの報告が26%から35%と増加した。全体のインシデント報告数が前年度に比し増加したため、インシデント報告全体のうち、医師からの報告割合は10%に満たなかった。影響度レベルの低いものについても報告する医師が増加していることから医療安全に対する意識は高まってきていると評価している。一方、30以上の医師からの報告はR4年度は113件であったが、R5年度は81件と減少していた。大きなインシデントが減少しているとも考えられた。引き続き、医師のインシデントレポート報告を推進していく。</p> <p>②医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関する授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。</p> <p>上記のとおり、すべての評価指標について目標値を達成または達成に向けた取り組みを行い、次年度以降での目標達成を見込むことができる体制を整えられていることから、自己評価(Ⅲ)とした。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. インシデントレポート件数における医師からの報告割合
(第4期の年度平均を10%以上)



b. 令和4年度から医療安全に関する卒前教育の内容について、病院の医療安全管理部、医学教育学講座等が情報共有を行い、系統立てた医療安全に関する講義を実施する。令和5年度以降は前年度の問題点等を整理し、改善を行う。

(令和5年度 実施内容)
 医学科で実施している医療安全に関する授業は、シラバス中に【医療安全シリーズ】と明記しており、医療安全に関する授業が明確化されている。このシラバスをもとに医学科授業を実施し、精査を行い、学年進行に応じた医療安全の内容について改善を行った。

令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (1) 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。^①</p>
中期計画	<p>1-1 産業界、地方自治体、外部の教育研究機関等における外部有識者から成る諮問会議を組織し、学外の視点を積極的に法人経営に取り込む。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>令和5年7月19日に第2回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、聴取した意見は評価報告書にまとめ大学HPで公開しており、十分に計画を達成した。次年度は第2回諮問会議で出た委員からの意見を反映させ、令和6年7月に第3回目の諮問会議の実施する予定としている。引き続き学長のリーダーシップのもと、強靱なガバナンス体制の構築に努める。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に設置する諮問会議において、毎年度、法人経営上の課題に対する意見を聴取し、その反映状況を公表する。

(令和5年度 実施内容)

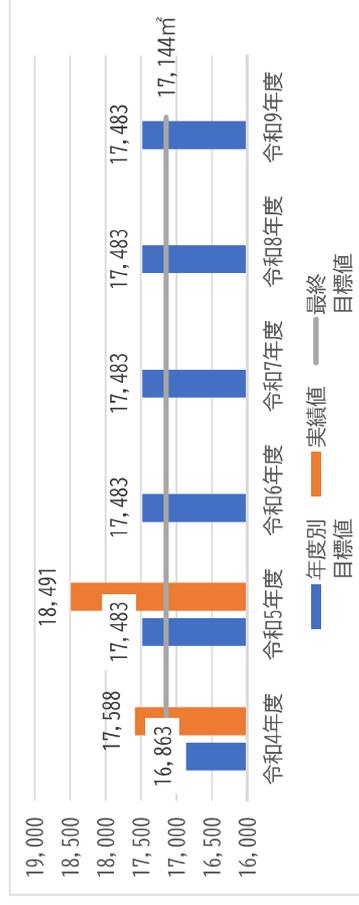
令和5年7月19日に第2回国立大学法人香川大学諮問会議を実施し、各委員に対し、学長が諮問する事項とその内容の概略について説明を行い、意見交換を行った。意見交換の結果は、評価報告書の形式に取りまとめ、大学HP上で公開を行った。

令和5年度 自己点検・評価結果について

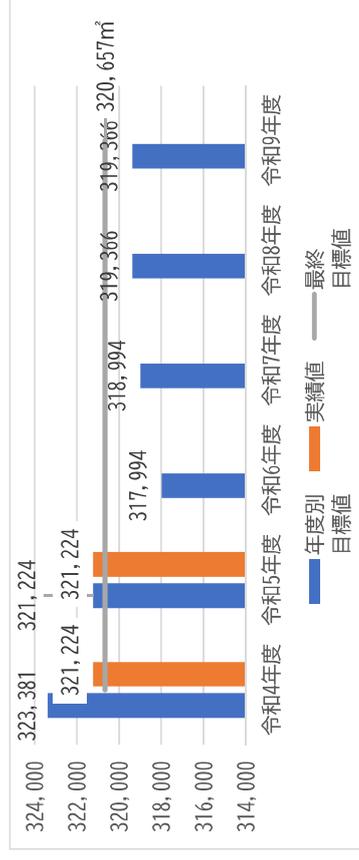
中期目標	<p>Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②</p>
中期計画	<p>2-1 大学が保有するスペースの適切な再配分や集約化などを行い、地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、共用スペースを拡充するとともに、利用率の低い施設の用途変更や用途廃止など、保有する建物の総面積の抑制を進め、施設の有効活用を推進する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>中期計画に掲げる共用スペースの拡充は目標を上回り達成し、保有する建物の総面積の抑制はR5年度の目標を達成している。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 共用スペース面積の増加 (令和9年度の実績を令和3年度末実績 (16,173㎡) と比べて6%以上増加)



b. 保有面積の縮減 (令和9年度の実績を令和3年度末実績 (323,896㎡) と比べて1%以上縮減)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②</p>
中期計画	<p>2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。</p>
令和5年度自己判定	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備及び老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR5年度の目標を達成している。ICT環境の拡充は目標を上回り達成し、老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR5年度の目標を達成した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

- a. 全学的共創拠点（イノベーションデザイン研究所、情報メディアセンター）の整備を行う。
- イノベーションデザイン研究所
 - ・令和3年度末に施設整備が完了し、令和4～6年度に設備整備を実施する。
 - 情報メディアセンター
 - ・令和4～5年度に施設整備、令和6年度に設備整備を実施する。

(令和5年度 実施内容)

令和5・6年度に予定していたイノベーションデザイン研究所及び情報メディアセンターの設備整備をR4年度に前倒し実施したため、令和5年度の目標を達成している。

b. ICT環境の拡充を要する講義室の整備率（令和3年度時点で未整備の講義室（14室）を令和9年度末時点で100%整備）

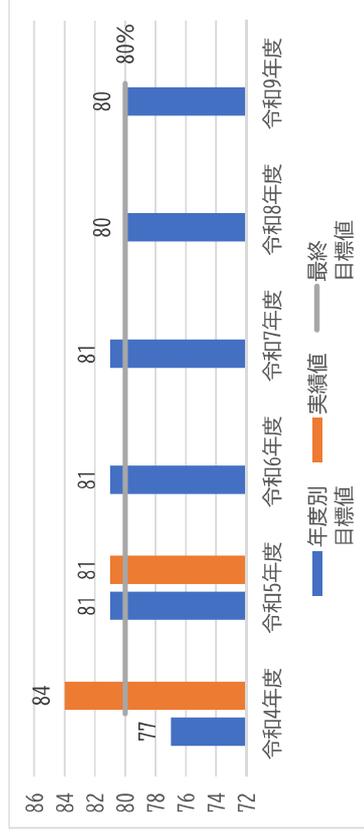


令和5年度 自己点検・評価結果について

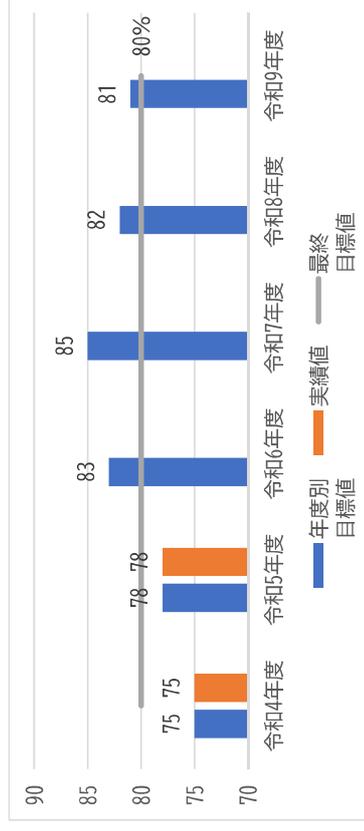
中期目標	<p>Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 (2) 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②</p>
中期計画	<p>2-2 地域・社会等に貢献する機能強化を行うため、全学的なマネジメントによる産官学の共創拠点となるキャンパス整備、ICT環境の拡充、老朽化した施設の改善整備など、戦略的な施設及び設備整備を実施する。</p>
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>中期計画に掲げる産官学の共創拠点となるキャンパス整備及び老朽化した施設の改善整備（老朽化建物）はR5年度の目標を達成している。ICT環境の拡充は目標を上回り達成し、老朽化した施設の改善整備（老朽化設備）はR5年度の目標を達成した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

c. 老朽化建物（経過年数50年超）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



d. 主要4団地（幸町・林町・三木町医学部・三木町農学部）の老朽化設備（経過年数30年超の給排水・電気等の配管・配線）の改善整備率（令和9年度末時点で80%以上）



令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、字内の資源配分の最適化を進める。③</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って、十分に実施が行えている。地域連携推進課の学術指導制度の創設に関しては、令和5年5月1日付けで「香川大学学術・技術コンサルティング取扱規程」を制定しており、当該制度を活用して、令和5年度は、6件、計約141万円を獲得することが出来た。</p> <p>・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、昨年度、既に目標値を達成しているが、令和5年度は更に27,720万円の収入増の見込みである。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、昨年度と比較し、約682万円の収入増となっている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 外部資金の獲得状況について、毎年度、外部の有識者から意見を聴取し、評価結果を公表する。

(令和5年度 実施内容)

【研究協力課】

科研究申請に関する説明会、ガイドブックの作成、申請書のブラッシュアップ(114件)を行い、26件採択された。そのうち基盤Cは18件採択され採択率は22.8%であり、若手は7件採択され採択率は36.8%であった。(令和5年度の国平均科研究費新規採択率は基盤Cが27.4%、若手が40.4%である)。また、学長戦略経費において、科研究費基盤B以上の獲得強化のための研究推進事業「基盤Bチャレンジング年度支援」「基盤Bリベンジ」を4件採択した。さらに、「基盤Bチャレンジング年度支援」「基盤Bリベンジ」採択者及び希望者の計10人を対象に、ロバスト・ジャパン(株)の科研究申請書レビュー支援を利用し、4名が採択された。

外部資金の獲得強化に向けた取組の結果、令和6年度の科研究費は新規・継続合わせて339件、474,955千円(間接経費含む)で、前年度から35件の減少、5,200千円の増加となった(新規は6件減少、6,890千円増加。継続は29件減少、1,690千円減少。継続の件数の減少は、主として延長・再延長をした課題が減少(77件→54件)したことによる)。

【地域連携推進課】

企業等に対して本学教職員が行う学術的な助言や指導について、従前無償であったものを収益化できる学術指導制度として、「香川大学学術・技術コンサルティング取扱規程」を令和5年5月1日付けで制定した。当該制度を活用し、令和5年度は、6件、計約141万円を獲得することが出来た。

【財務企画課】

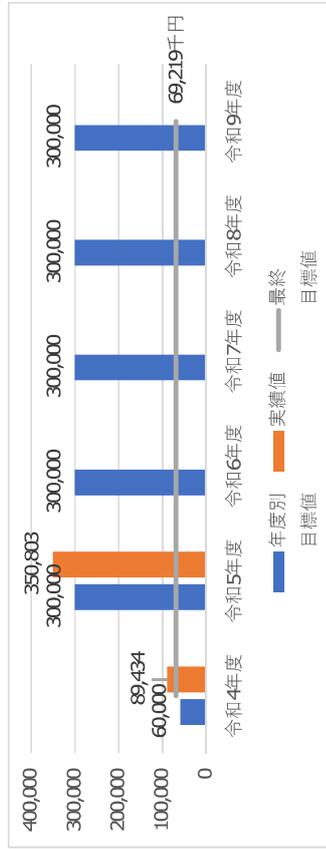
外部資金獲得を推進するため、令和5年度当初予算において、学部等の教育研究活動の成果を予算に反映させるため、活動実績に基づき運営費配分制度の評価指標に沿って予算配分を実施した。令和5年度は、学部等の運営費配分に係る評価配分率を「90～110%」から「80～120%」に変更し、メリハリのある配分を行った。

令和5年度 自己点検・評価結果について

<p>中期目標</p>	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、字内の資源配分の最適化を進める。③</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-1 安定した財務基盤の確立のため、外部資金等の受入れの拡大や保有資産の有効活用などによる財源の多元化を進める。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 ／改善事項・改善計画</p>	<p>・外部資金の獲得状況については、各課で定めたロードマップに沿って、十分に実施が行えている。地域連携推進課の学術指導制度の創設に関しては、令和5年5月1日付けで「香川大学学術・技術コンサルティング取扱規程」を制定しており、当該制度を活用して、令和5年度は、6件、計約141万円を獲得することが出来た。</p> <p>・財産貸付料・手数料収入の増については、附属病院における福利厚生施設等の定期借地権設定契約等により、昨年度、既に目標値を達成しているが、令和5年度は更に27,720万円の収入増の見込みである。また、講義室等短期貸付料単価を見直したことにより、昨年度と比較し、約682万円の収入増となっている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. 財産貸付料・手数料収入の増 (令和9年度の実績を第3期平均と比べて20%以上増加)

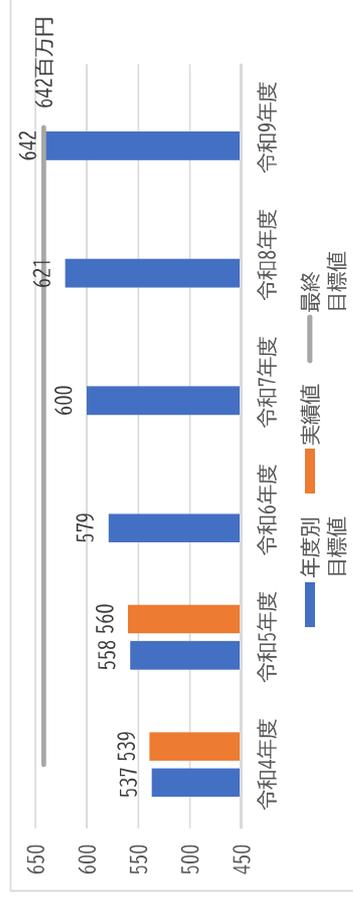


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 (1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。②
中期計画	1-2 学長のリーダーシップのもと、学長戦略経費を増加させることにより、機能強化や組織改革等の取組を戦略的かつ効果的に推進するための資源配分の仕組みを構築する。
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	学長戦略経費のうち、第4期中期目標・中期計画推進事業として特定した取組については、学長を含めた役員等によるヒヤリングを実施し、その進捗状況等を確認した上で、予算を配分した。大学のDX推進については、学長のリーダーシップの下、重点的に予算の配分を行っている。

(参考) 評価指標達成状況

a. 学長戦略経費の増 (令和9年度の実績を令和3年度実績と比べて30%以上増加)



令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項 (1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。④
中期計画	1-1 中期計画の進捗状況、評価指標の達成状況等について、客観的なデータに基づき自己点検・評価するとともに、外部の意見を取り入れた評価結果を公表する。
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	令和4年度の実績について、自己点検・評価を着実に実施するとともに、外部評価として「国立大学法人香川大学諮問会議」においても、自己点検・評価結果について検証を実施している。また、それぞれ評価結果等について外部への公表を実施している。

(参考) 評価指標達成状況

2. 中期計画の達成状況の自己点検・評価を毎年度実施し、評価結果や改善状況等を公表する。

(令和5年度 実施内容)

中期計画に係る評価指標及びロードマップに係る進捗状況点検結果について、大学評価委員会での当該点検結果の検証等を実施し、評価結果の確定を行った。併せて、当該結果をホームページで公表している。

b. 外部評価を実施し、評価結果及び評価結果の反映状況等の公表を行う。

(令和5年度 実施内容)

「国立大学法人香川大学諮問会議」において、自己点検・評価の結果を基に、中期計画の進捗状況の検証を行った。また、諮問会議にて、委員等よりいただいた意見等を取りまとめ、評価報告書として各担当部局へ共有し、適宜改善を実施している。評価報告書については外部評価結果として、ホームページで公表している。

令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	<p>IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項</p> <p>(1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。②</p>
中期計画	1-2 デジタルONE戦略に基づき、学内の情報を集約し、データベース化することで、ステークホルダーに積極的に情報を発信するとともに、双方向の対話を行う。
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	<p>a. 令和4年度に整理（情報共有方法の見直し）・策定した情報発信に関する学内統一ルールに基づき、学内の情報を集約するデータベースを整備し、日々データを蓄積している。</p> <p>プレスリリース及びテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を部局と連携してデータベース化し、全学で活用できるようにすることで、学内の情報を効率よく集約・分析し、更なる広報活動に繋がられるようになった。</p> <p>また、情報発信に関するルールの統一化により、業務の削減・効率化が図れた。</p> <p>b. 令和4年度に構築・導入した各種広報媒体（広報誌、ホームページ、SNS）のモニター制度に基づき、今年度新たに募集したさまざまな年代・居住地・職業のモニターに対し、2回のアンケート調査を実施した。</p> <p>また、令和4年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部署から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。</p>

(参考) 評価指標達成状況

a. 令和4年度に情報発信に関する学内統一ルールを整理・策定し、令和5年度に学内の情報を集約するデータベースの整備を行う。令和6年度からデータベースを活用した情報発信を行う。

(令和5年度 実施内容)

令和4年度に整理（情報共有方法の見直し）・策定した情報発信に関する学内統一ルールに基づき、学内の情報を集約するデータベースを整備し、日々データを蓄積している。

プレスリリース及びテレビ・ラジオ・新聞等の報道情報を部局と連携してデータベース化し、全学で活用できるようにすることで、学内の情報を効率よく集約・分析し、更なる広報活動に繋がられるようになった。

また、情報発信に関するルールの統一化により、業務の削減・効率化が図れた。

b. 令和4年度にモニター制度を構築・導入し、令和5年度から毎年度モニターからの意見と対応を公表する。

(令和5年度 実施内容)

令和4年度に構築・導入した各種広報媒体（広報誌、ホームページ、SNS）のモニター制度に基づき、今年度新たに募集したさまざまな年代・居住地・職業のモニターに対し、2回のアンケート調査を実施した。

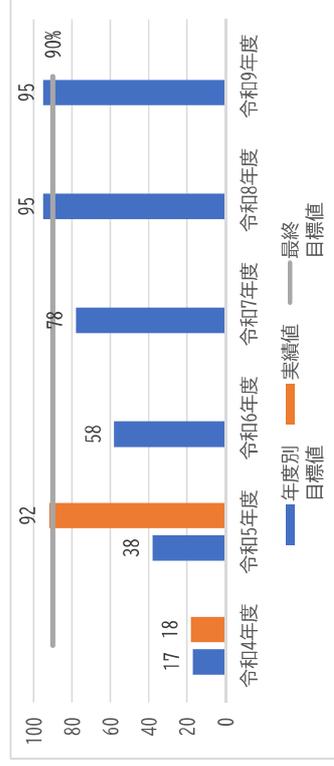
また、令和4年度に実施した2回のアンケートの回答と、広報課及び各部署から挙げられた対応を取りまとめ、ホームページで公表した。

令和5年度 自己点検・評価結果について

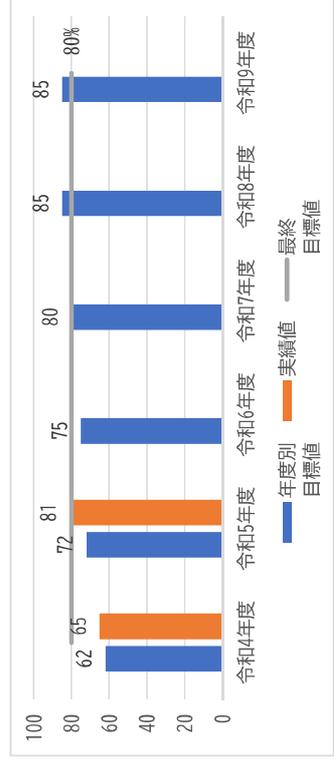
<p>中期目標</p>	<p>V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナパンカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。④</p>
<p>中期計画</p>	<p>1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。</p>
<p>令和5年度自己判定</p>	<p>(Ⅲ) 計画を十分に実施している</p>
<p>達成状況・成果 /改善事項・改善計画</p>	<p>中期計画「1. デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。」について、大学業務のDXを推進している。また多要素認証を実施率を引上げることセキュリティの強化を図っている。各指標に関しても計画どおり推移しているため、計画を十分に実施していると判断した。</p> <p>※a)については令和6年度より評価指標変更 令和5年度については、デジタルONEアンバサダーとして34名を新規に任命し経験を有する者の拡大を図っている。また、デジタルONEアンバサダーと協働した内製開発の実施や活動報告会等を通じた自発的な取組の周知・展開など、デジタルONEアンバサダーによる具体的なDXの推進を行っている。</p>

(参考) 評価指標達成状況

b. 本学でアカウントを発行しているユーザが本学で提供するサービスへログインする際の多要素認証の実施率 (令和9年度末時点で90%以上)



c. 大学全体の教育、研究及び事務業務で利用するシステムのクラウド化率 (令和9年度末時点で80%以上)

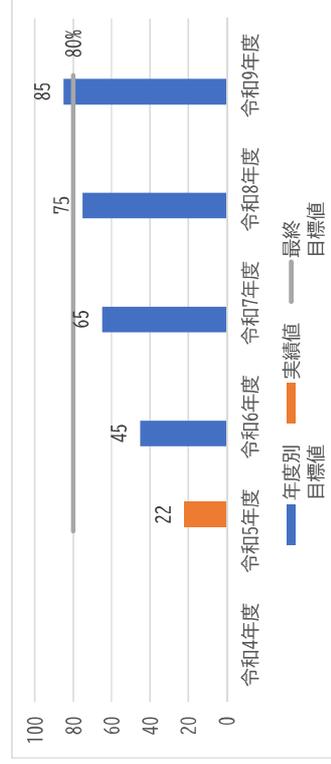


令和5年度 自己点検・評価結果について

中期目標	V その他業務運営に関する重要事項 (1) AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。④
中期計画	1-1 デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。
令和5年度自己判定	(Ⅲ) 計画を十分に実施している
達成状況・成果 ／改善事項・改善計画	中期計画「1. デジタルONE戦略に基づく教職員及び学生の協働による大学業務のICT化・DX化を通じ、業務効率化、セキュリティ強化を行い、平時のみならず大規模災害などの非常時においても、教職員や学生の活動が安全かつ速やかに進められるよう業務運営体制の継続性を強化する。」について、大学業務のDXを推進している。また多要素認証を実施率を引上げることでもセキュリティの強化を図っている。各指標に関しても計画どおり推移しているため、計画を十分に実施していると判断した。 ※a)については令和6年度より評価指標変更 令和5年度については、デジタルONEアンバサダーとして34名を新規に任命し経験を有する者の拡大を図っている。また、デジタルONEアンバサダーと協働した内製開発の実施や活動報告会等を通じた目発的な取組の周知・展開など、デジタルONEアンバサダーによる具体的なDXの推進を行っている。

(参考) 変更後の評価指標について

a. 常勤事務職員(一般職員I)のうち、DX推進担当(デジタルONEアンバサダー)の経験を有する者の割合が80%以上



評価事項：社会との共創に関すること[中期目標・中期計画①]

- ・学生参加型実践教育プログラムに関する取り組みについて
- ・地域課題解決指向型共創プログラムに関する取り組みについて
- ・SDGsに関する取り組みについて

1. 令和5年度取組内容等：別紙のとおり

2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

	優れている点	・地域の発展、地域創生のために、学生が様々な活動に取り組んでいる。 ・特になし
<p>【反映状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・地域共創プラットフォーム香川において、学生の県内定着に向けた様々な取組を進めている。 ・大学広報誌かがアド（年2回刊行・県内高校にも送付）への掲載を検討するとともに、地域人材共創センターホームページにある地域活動MAPの情報提供を行う。 ・大学院地域マネジメント研究科教員が中心となり、年3～4回金融人材養成セミナーを開講している。また、附属小中学校においては、社会科の授業等で金融教育を実施している。 	改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県での就職等、地域に定着する人材を増やしていただきたい。 ・香川県内の高校、義務教育の先生方に、実践教育プログラムで行っている色々な取組や地域の情報を、定期的に情報提供していただきたい。 ・金融教育についても、取り入れていただきたい。
	今後に期待する点	

社会との共創に関すること [学生参加型実践教育プログラム]

諮問会議
審議資料2-1
令和6年7月25日

中期計画

地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材を育成するため、地元自治体や企業、県内外の大学等と連携し、地域の特性を活かした多様な学生参加型実践教育プログラムを展開する。 <<第4期最終年度の目標値_実施件数66件、参加学生数1196名>> 【R5年度実績_実施件数69件、参加学生数1372名】

地域社会への認識を深め、県内における地域社会の活性化と魅力化に向け活躍できる人材育成につなげる

学生が県内フィールドワークを行う授業科目及び地域を題材とした全学的な自主活動プログラム（学生参加型実践教育プログラム）を積極的に推進。
授業科目の中で、地元自治体や地域企業・団体、県内大学等と連携したプロジェクトや取組に対し、令和5年度は19件を経費支援。

【R5年度 学生参加型実践教育プログラムへの支援例】

授業名	事業概要
①美術科内容構成 (男木島コミュニケーション)	男木島を基点に地域資源を生かした造形ワークショップの開発及び実践を行い、アートを基盤とする研究手法「Arts-Based Research」[A/r/tography]（アートグラフィ）におけるウオーキングメソッドの手法を用いた探究活動を調査。
②老年生活援助実習 (三木町地域包括支援センター)	看護学生は日常で身近な高齢者と接する機会が減少し、臨地実習前にその特徴をイメージ化することが難しくなっているため、実習前の準備として地域で生活する高齢者や家族、その生活を支える他職種との関わりを臨地実習前に体験する機会を得ることを目的に認知症カフェを開催。
③植物分子育種学 (小豆島町中山棚田)	小豆島の棚田での稲作や地域伝統文化活動に参加することで、棚田を中心とした持続可能な地域社会の未来創生について、学生と地域住民が共に考えていくことを目的に実施。

・「地域活動MAP」を作成し、Webで公開。

教員や学生が地域をフィールドとした活動を視覚的に表したMAPを作成し、HP上で公開。

〔MAPで公開した活動の事例〕

地域資源を生かした造形ワークショップの開発及び実践 《美術科内容構成》(R5_男木島)	リアル勇者部における海岸清掃 《瀬戸内地域活性化プロジェクト》 (R5_観音寺市)	小豆島における海岸清掃 《(KBPプログラム)瀬戸内の海をデザインする》 (R5_小豆島)
三木町認知症カフェ 《老年生活援助実習》(R5_三木町)	栗林公園、掬月亭の見学と抹茶体験 《初級日本事情a(1)》(R5_高松市)	通訳案内士による英語ガイド付通路体験 《初級日本事情a(0)》(R5_高松市)
小豆島中山地区棚田保全に関するフィールドワーク 《植物分子育種学》(R5_小豆島)	地域コミュニティの活性化への取り組み 《卒業研究・卒業制作》(R5_高松市)	事業継続マネジメントにおけるフィールドワーク 《事業継続マネジメント》(R5_高松市)



<①美術科内容構成 (ワークショップ)>



<②老年生活援助実習 (認知症カフェ)>



<③植物分子育種学 (フィールドワーク)>



<①美術科内容構成 (WS(ワークショップ))>



<②老年生活援助実習 (ハンドクロームの作成)>



<地域活動MAP>

社会との共創に関すること [地域課題解決指向型共創プロジェクト]

諮問会議
審議資料 2-2
令和6年7月25日

中期計画

地域社会における課題解決や持続的な活力づくりに資するため、産官学の連携の下で、大学が核となる地域課題解決指向型共創プロジェクトを展開する。
「第4期最終年度が目標値_実績件数3件、参加教職員数15名」 「R5年度実績_実績件数7件、参加教職員数41名」

産官学の連携の下で、大学が核となる「地域課題解決指向型共創プロジェクト」を展開

「地域からのニーズに基づき、地域課題解決指向型共創プロジェクトを実施」

- ① 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) (東京藝術大学)
東京藝術大学と連携し、「アートと科学技術による『心の豊かさ』を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開」を推進。
- ② 瀬戸内再生のための「人×技術×海」マッチング共創拠点 (香川県、香川県漁連、NECネットワークスアソシエイツ)

瀬戸内海の「環境保全」に「水産業」に着目し、10年後の瀬戸内海において、かつての資源あふれる豊かな海「天然の生簀(いけす)」の再生を目指し、デジタル技術を活用した科学的根拠に基づく、効果的かつ効率的な次世代型の手法への転換による諸課題の解決を目指す。

- ③ 瀬戸内海分校プロジェクト (香川県、東京藝術大学)

「瀬戸内海」をテーマに、従来の美術展やワークショップの開催に加え、県内の高校生が大学教授やアーティストから美術展開催に至るまでの一連の流れを学ぶほか、地域住民を対象とした作品制作ワークショップや美術展の開催準備まで携わるアートマネジメントを学ぶプログラム。

- ④ 院内学級での遠隔教育 (高松市、ソニーグループ株式会社)

初等教育の生徒が長期の入院による院内学級での就学期間を経て通常学級に戻る際のクラス替えや担任の変更に伴う本人、両親、クラスメイトそれぞれの心理的な不安を解消するため、復学する前に等身大サイズで双方向にコミュニケーションができるデバイス (ソニーが開発したテレプレゼンシステム「窓」) を用いてスムーズな復学の支援とその効果を実証。



① <J-PEAKS採択に関する記者会見>



① <芸術未来研究場せとうち完成予想図>



② <現地調査による薬場造成機能の評価>



② <観光地域づくりマネージャー会議とのワークショップ>



③ <海を愛する「くらしのみ」展>



④ <「窓」を使ったコミュニケーション>

社会との共創に関すること [SDGsの推進 (アクションプラン策定)]

諮問会議
審議資料 2-3
令和6年7月25日

中期目標

人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。

SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定・公表するとともに、HP等での取組み状況を発信



ダイバーシティ

少子高齢化、情報化、グローバル化など社会環境が大きく変化している中、「持続可能な地方分散型社会」を実現するためには、多様性を尊重し、認め受け入れることが重要であり、香川大学においては、「D&I (ダイバーシティ&インクルージョン)」の推進を第4期中期目標・中期計画における最重要課題の一つとして位置付けている。

SDGs達成にあたってはこの考え方は重要であり、一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できるよう、教育・研究・労働環境の整備や、意識の醸成、地域社会や国際社会との連携を推進する。

(主な関連するSDGs目標)

カーボンニュートラル

気候変動は気象災害や食糧難など様々な問題を引き起こす国際的な課題であり、2021年11月にイギリスで開催されたCOP26 (国連気候変動枠組条約第26回締約国会議) において、地球の平均気温の上昇を1.5度に抑える目標に向け、世界中で努力することが合意された。日本としても2050年までにカーボンニュートラルを実現するという目標を掲げている中、その達成には地域のエンパワーメントが不可欠である。

本学では、地球温暖化のさらなる進行防止に向け温室効果ガスの発生と吸収・利用を均衡させるため、**省・蓄・創エネルギー**に関連する課題を解決するとともに、**気候変動適応**に向けた多様な取組を推進する。

(主な関連するSDGs目標)

サステイナブルライフ

「持続可能な地方分散型社会の実現」にあたっては、さまざまな側面からのアプローチを考える必要があるが、なかでも健康や環境は、基盤となる重要な要素である。たとえば、香川においては、糖尿病の受療率や死亡率が全国有効となっており、あらゆる地域住民が健康長寿でいられたるためには糖尿病を含めた生活習慣病等の対策が必要である。また、瀬戸内海には豊かな生態系が存在する一方、栄養塩類の適正管理などの課題も生じている。このため、**糖尿病を代表とする生活習慣病等の患者数の削減**につながる**健康増進**、**瀬戸内海の生態系保全等**に向けた**環境保全**、**持続可能な資源循環**を推進する。

(主な関連するSDGs目標)



ホームページによる発信

社会との共創に関すること [SDGsの推進（地域課題関連プロジェクト）]

中期計画

SDGsに関する全学的な推進体制を整備し、アクションプランを策定するとともに、活動経費の支援を行い、地域課題の解決に資する取組を推進する。
 <<第4期最終年度の目標値_実績件数3件>> 【R5年度実績_実績件数12件】

地域課題の解決に資するSDGsの取組を、学長戦略経費「SDGs推進経費」により学内公募し支援

<<令和5年度採択課題>>

No	代表者	課題名
①	経済学部 緒方宏海	香川県離島高齢者の生活ニーズ、社会的孤立の防止と島の人口増加対策
②	医学部 日下 隆	院内学級をモデルケースとしたデジタル技術の活用による病氣療養児の教育支援に関する実証研究
③	附属病院 横田恭子	感染症専門医偏在地域における抗菌薬適正使用サポート
④	創造工学部 柴田悠基	瀬戸内海 Art & Science 海洋環境保全プロジェクト
⑤	創造工学部 山本高広	commons ペースにおける新型コロナウイルス感染症対策と省エネルギー消費行動を両立する表示デバイスの開発
⑥	農学部 多田邦尚	香川県志度湾における持続可能な水産養殖研究
⑦	地域人材共創C 神田 亮	コンテンツツーリズムを活用した海岸清掃活動

<<令和5年度採択課題の活動写真>>



① <香川県離島高齢者の生活ニーズ、社会的孤立の防止と島の人口増加対策>



② <院内学級をモデルケースとしたデジタル技術の活用による病氣療養児の教育支援に関する実証研究>



④ <瀬戸内海 Art & Science 海洋環境保全プロジェクト>



⑥ <香川県志度湾における持続可能な水産養殖研究>



⑦ <コンテンツツーリズムを活用した海岸清掃活動>



評価事項：リカレント教育に関すること[中期目標・中期計画⑪]

1. 令和5年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

<p>【反映状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内用パンフレットやホームページに、講座の目的や期待される成果、受講対象者を分かりやすく記載している。引き続きHPやSNS等を活用して情報提供を行うとともに、企業訪問等も実施している。 ・大学院創発科学研究科への社会人の進学を促進し、社会人と学生の研究活動の多様な連携を活性化させる。 ・現行の公開講座及びリカレント専門講座は、シニア層の受講も可能である。 ・令和6年度に設置されたリカレントキャリアスキル教学センターにおいて、大学院への社会人進学希望者の開拓・マッチングの強化及び社会人向けの教育プログラムの開発を進めていく。 	<p>優れている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に熱心に取り組まれている。 <p>改善を要する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リカレント専門講座情報について、どういう内容のものをどういう対象の方に提供したいのか、出来る限り分かりやすく、外部へ向けて、情報提供していただきたい。 ・社会人と学生と一緒に勉強する講座的なものを検討いただきたい。 ・シニア層も含めたリカレント教育を行っていただきたい。 ・〔中期目標大綱番号⑩No.10 社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に因應するため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。〕について、自己評価として「(IV) 計画を上回って実施している。」と判定しており、継続して、リカレント教育なり、社会人になった方が、香川大学で色々な研究が出来るという仕組み作りをさらに磨いていただきたい。 <p>今後に期待する点</p>
---	---

リカレント教育に関すること [リカレント専門講座の拡充]

中期計画

社会人の学びの志向に円滑かつ機動的に対応するため、支援体制を組織的に整備し、各種の支援機能の強化・拡充を図ることにより、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育・リスキリング教育を展開する。《第4期最終年度の目標値_実績値_実績件数6件、受講者数110名》《R5年度実績_実績件数10件、受講者数138名》

自治体や地域企業のニーズ情報を基に、学部コワーキングスペースと連携して講師や内容等を企画・調整し、リカレント専門講座を実施。

地域人材共創センターにおいて、自治体や地域企業から寄せられたリカレント・リスキリングのニーズ情報を基に、本学の学部コワーキングスペースと連携して講師や内容等を調整する体制を整備し、公開講座を計画・実施。

【R5リカレント専門講座】

講座名	開催期間
食品加工の基礎と応用-安全性から機能性まで-	R5.5.11 ~ R5.6.1
グローバル視点を醸成し、地域からイノベーションを起こすマインドセットとデザイン思考を身につける	R5.5.12 ~ R5.7.26
アントレプレナーシップ入門講座（事業計画作成編）《第1回》	R5.7.6 ~ R5.8.3
瀬戸内のサステイナブルな観光資源としての食（食文化）の体験コンテンツを創造する	R6.2.1 ~ R6.3.7
アントレプレナーシップ入門講座（事業計画作成編）《第2回》	R6.2.6 ~ R6.2.27

【ホームページ、SNS等での情報提供】



リカレント教育に関すること [リカレント専門講座の拡充]

◆食品加工の基礎と応用 -安全性から機能性まで-

【目的】農産物、畜産物、水産物を原料として製造される加工食品の加工特性、嗜好性、機能性、安全性に関わる知識を学び、食品製造や食品開発に従事している方への学び直し・スキルアップ

期間：令和5年5月11日～6月1日の4日間（オンライン併用）
 >医療・介護従事者、食品販売業、食品製造業、飲食業、協同組合、フリーランスなど 9名が受講



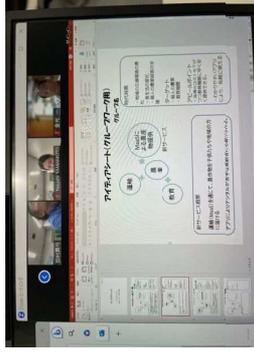
令和5年度中の取組

◆アントレプレナーシップ入門講座（事業計画作成編）

●アントレプレナーシップ入門講座は、2回開講

【目的】具体的なケースの検討においてアントレプレナーシップの発揮を体験することで、地域との関係性構築、地域活性化に貢献しうる手法を身につけた人材を育成する

【第1回】期間：令和5年7月6日～8月3日の5日間（オンライン併用）
 >フリーランス、情報通信業、鉄道業 4名が受講
 【第2回】期間：令和6年2月6日～2月27日の5日間
 >フリーランス、サービス業、医療サービス業など 6名が受講



◆グローバル視点を醸成し、地域からイノベーションを起こすマインドセットとデザイン思考を身につける

【目的】イノベーションの土台となる疑問力を養い、デザイン思考を用いた演習で、自社課題に対応できる基礎力を養う

期間：令和5年5月12日～令和5年7月26日の7日間
 >製造業、鉄道業、電気業、コンサルティング事業、サービス業、金融業など 17名が受講



◆瀬戸内のサステイナブルな観光資源としての食（食文化）の体験コンテンツを創造する

【目的】教員からはマーケティングなどの基礎的な知識を、事業者である講師からは現状や課題を学び、ディスカッションを重ねて、最終的に受講生自らが「ならばではの食の体験コンテンツ」のアイデアを創出する

期間：令和6年2月1日～3月7日の6日間（オンライン併用）
 >フリーランス、広告業、非営利団体、鉄道業、サービス業、宿泊業、ブランドディング事業など 12名が受講



評価事項：ダイバーシティ推進体制に関すること[中期目標・中期計画⑬]

1. 令和5年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

<p>【反映状況】</p> <p>これまでさまざまな名称で実施していたD&Iに関する研修を、令和5年度から「D&I研修」として位置づけ、名称を統一し、定期的に開催することで、D&Iの学びの機会であることを分かりやすくした。</p> <p>実施方法もオンライン配信に加え、オンデマンド配信など、より多くの教職員が参加しやすくなるよう改善を行った。</p> <p>学生に対しては、全学共通科目でD&I関連科目を2科目開講するなどD&Iについて学ぶ機会を増加させた。また、令和4年度からスタートしている「香川大学D&Iキャンパスプロジェクト」では、令和5年度に中間報告会を開催し、学生視点からの支援や施設の在り方について、具体的な検討を進めている。</p> <p>令和6年度からD&Iの重要性を理解するための機会を全構成員へ提供するため「D&Iマスター制度」をスタートさせた。その結果を可視化することで、本学のより一層のD&I推進につなげていく。</p> <p>これらの取組を通して、D&Iの効果や成果についても検証していきたい。</p>	<p>優れている点</p> <p>改善を要する点</p> <p>今後に期待する点</p>	<p>・特になし</p> <p>・「香川大学ダイバーシティ&インクルージョンに関する全学調査 vol.1 結果報告書」中「D&Iに関する教育や研修の受講経験」において、教育や研修を広く開講しているが、「受けたことがない」の回答率が高いので、もっと多くの教職員にも受講してもらえらるよう、努めていただきたい。</p> <p>・ダイバーシティを推進することがどうということなのか、「D&Iの効果」について、引き続き、検討いただくとともに、多様性の重要性について、学生に伝えていきたい。</p>
---	--	--

第4期中期目標・中期計画に係るD&I活動計画(案)

中期目標	様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬
中期計画	5-1 学生が安心して学べる環境を提供するため、ダイバーシティ推進に配慮した修学支援、生活支援等の充実や環境整備等を行う。
評価指標	a. 令和4年度にダイバーシティ推進のためのガイドライン及び活動計画を策定するとともに、令和5年度から活動計画の進捗状況を外部の有識者により検証し、検証結果に基づく改善状況を公表する。 b. 教職員や学生に対するダイバーシティへの理解度や活動の効果測定するアンケート調査を毎年実施し、アンケート結果及び結果に基づく改善状況を公表する。

活動の評価指標	第4期中期目標期間				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
①活動計画の策定	策定	諮問会議評価結果公表	諮問会議評価結果公表	諮問会議評価結果公表	諮問会議評価結果公表
→評価結果に基づく改善		施策に反映	施策に反映	施策に反映	施策に反映
②D&Iガイドライン策定	策定				
③全学調査の実施(定常調査)	vol1実施	結果公表・検証	vol3実施	結果公表・検証	vol5実施
→調査結果に基づく改善	施策検討・実施	施策検討・実施	施策検討・実施	施策検討・実施	施策検討・実施
			適宜見直し・改訂		

D&I活動内容	第4期中期目標期間				
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
教育活動(講義)	ダイバーシティ関連科目 2科目開講	ダイバーシティ関連科目 2科目開講	ダイバーシティ関連科目 2科目開講	ダイバーシティ関連科目 開講	ダイバーシティ関連科目 開講及び科目群の体系化検討
	SOGIハラ研修(ハラースメント防 止研修として)	D&I研修(SOGI) ハリアフリー研修(学生) ICのSD研修(職員)	D&I研修(テーマ検討中)	D&I研修	D&I研修
啓発活動(イベント)	D&Iフェスタ (性の多様性、SOGI)	D&Iフェスタ(障害者支援) D&Iプロジェクト中間報告会 D&I相談会	D&Iフェスタ (D&Iプロジェクト実施報告を含む)	D&Iフェスタ (D&Iプロジェクト実施報告を含む)	D&Iフェスタ 【学生との共同企画】 D&Iマスター制度
	ハリア、インターナショナルオフィス、保健管理 インターナショナルオフィス		GC多文化理解イベント	GC多文化理解イベント	GC多文化理解イベント 学生団体「D&Iキャンパスプロジェクト委員会」(仮)
学生プロジェクト	D&Iキャンパスプロジェクトメンバー募集	D&Iプロジェクト中間報告会	D&Iプロジェクト実施	D&Iキャンパスプロジェクト実施	GC多文化理解イベント
	環境整備	ハリアフリー支援室	ハリアフリー点検(外部機関と連携) (赤字ブロックエの駐輪問題、郵便設置、段 差差等)	アクセシビリティに配慮した案内 図設置(エレベーター・多目的トイレ等)	ハリアフリー点検
施設課課部、ハリア、インターナショナルオフィス	ユニバーサルデザインマップの更新(全キャンパス)			検証・見直し	
広報活動	D推進室HPリニューアル	D&Iガイドライン活用の広報		HPの拡充やSNSを利用した積極的な情報発信	
	相談体制整備	D&I相談会開催(外部機関と連携)			相談内容に応じて、学内または外部相談機関の相談員へつなぐコンシェルジュ(定期的なD&I相談会の検討)

男女共同参画	四国大学表による男女共同参画推進共同宣言の公表 JUST受託事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」
--------	--



D&I Master System

D&Iマスター制度

香川大学は、構成員一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できるD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）を推進するため、様々なバックグラウンドを有する構成員が安心・安全に学び、研究し、働くことのできる環境整備をめざしています。

2024年4月からスタートする「D&Iマスター制度」は、D&Iについて学ぶ機会を広く提供するもので、誰もが活躍できるキャンパスをみなさんと作るきっかけになればと考えています。D&Iマスターをめざしてみませんか！

D&Iマスターを取得するには？

学生

以下①から③の要件を卒業・修了までにすべて満たすこと

- ① バリアフリー支援室、インターナショナルオフィス（グローバル・カフェ）、保健管理センター主催の研修受講あるいはイベントに1つ以上参加
- ② D&Iフェスタ事業（毎年10月開催予定）のうち1つ以上参加
※①・②共に、オンライン・オンデマンド参加も可
- ③ 確認テスト（オンライン、10月以降開始）

教職員

以下①から④の要件を1年（4～3月）ですべて満たすこと

- ① ダイバーシティ推進室主催のD&I研修の受講
- ② バリアフリー支援室、インターナショナルオフィス（グローバル・カフェ）、保健管理センター主催の研修受講あるいはイベントに1つ以上参加
- ③ D&Iフェスタ事業のうち1つ以上参加 ※オンライン・オンデマンド参加も可
- ④ 確認テスト（オンライン、10月以降開始）

評価事項：外部資金の獲得状況に関すること〔中期目標・中期計画②〕

1. 令和5年度取組内容等：別紙のとおり
2. 昨年度の諮問会議でのご意見及び反映状況

<p>【反映状況】 第4期中期目標期間における外部資金も活用した本学の教育・研究・地域貢献等の活動が社会に与えたインパクトを総合的に検証することとしている。</p>	<p>優れている点</p>	<p>・特になし</p>
	<p>改善を要する点</p>	<p>・特になし</p> <p>・大学として、外部資金の提供を受け、社会的貢献度はどうだったのか等、総合的な取り纏めについて、検討いただきたい。</p> <p>・ファイナンスの組織としての強化について、引き続き、しっかりと取り組んでいただきたい。</p>
	<p>今後に期待する点</p>	

外部資金の獲得状況に関すること（第4期中期目標・中期計画②③）

評価指標

外部資金の獲得状況について、毎年度、外部の有識者から意見を聴取し、評価結果を公表する。

達成水準

第4期最終年度の評価までに、外部委員から評価において「取組の効果による成果が認められる」こと。

R5年度ロードマップ

【取組①】第4期中期目標・中期計画期間においては、毎年度、外部資金の獲得強化に向けて科研費申請に関する説明会の開催、ガイドブックの作成、申請書のブラッシュアップを行う。また、学長戦略経費による科研費基盤B以上の獲得件数増加に向けた支援を行う。

【取組②】本学が学外に対して実施している学術的助言や指導について、従前無償であったものを収益化できる制度（仮称「学術指導制度」）を創設する。

【取組③】学部等に対する教育研究活動の実績状況に基づき運営費配分制度を創設し、毎年度、評価指標に沿って予算配分を行う。



R5年度進捗状況・成果

【取組①】科研費申請に関する説明会、ガイドブックの作成、申請書のブラッシュアップを行い、81件新規採択された。また、学長戦略経費において、科研費基盤B以上の獲得強化のための支援事業及び科研費申請書レビュー支援を活用し、4件の新規採択につながった。

外部資金の獲得強化に向けた取組の結果、令和6年度科研費の採択件数と採択金額は、新規・継続合わせて339件、474,955千円で、前年度から35件の減少、5,200千円の増加となった。

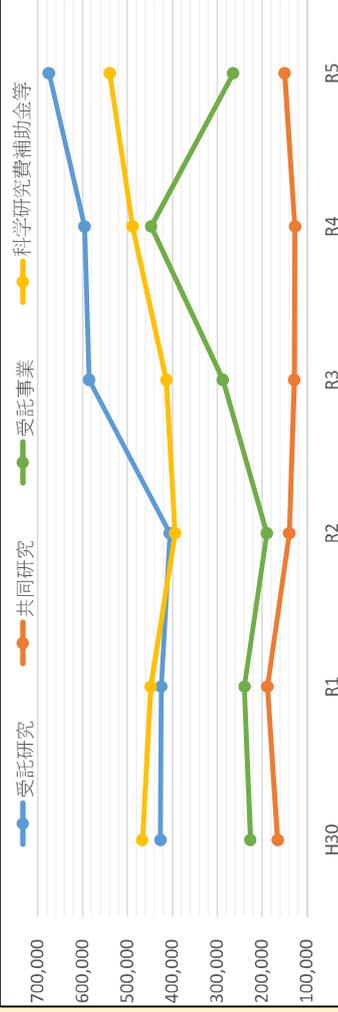
【取組②】企業等に対して本学教職員が行う学術的助言や指導について、従前無償であったものを収益化できる学術・技術コンサルティング制度を令和5年5月1日付けで創設した。当該制度を活用し、令和5年度は、6件、約141万円を獲得することが出来た。

【取組③】外部資金獲得を推進するため、令和5年度当初予算において、学部等の教育研究活動の成果を予算に反映させる運営費配分制度（※）の評価指標に沿って予算配分を実施した。学部等の運営費配分に係る評価配分率を「90～110%」から「80～120%」に変更し、メリハリのある配分を行った。

※外部資金獲得のインセンティブとなるよう、文科省の評価指標の一部である科研費獲得額の伸び率や大学独自の間接経費獲得額の伸び率といった指標等に基づき、予算の配分を実施。

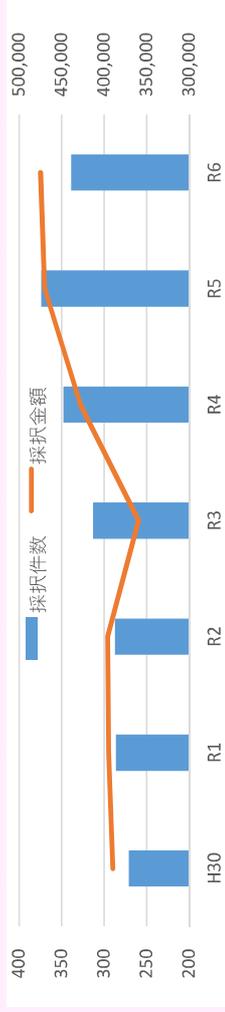
H30～R5外部資金当期受入額の推移

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
受託研究	426,294	424,790	405,461	585,210	595,721	674,973
共同研究	164,811	187,912	138,846	128,028	126,311	149,515
受託事業	225,765	238,938	189,190	287,265	447,220	264,467
科学研究費補助金	466,734	448,083	393,861	413,290	488,336	538,922
等						
合計	1,283,604	1,299,723	1,127,358	1,413,793	1,657,588	1,627,877



H30～R6 科研費採択件数・採択額の推移

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
採択件数	271	286	287	313	348	374	339
採択金額	389,610	394,810	395,850	359,385	427,830	469,755	474,955



国立大学法人香川大学諮問会議委員名簿

令和6年4月1日以降

職名	氏名	任期	備考
(株)百十四銀行取締役会長	綾田 裕次郎	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
高松市長	大西 秀人	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
徳島文理大学学長	田村 禎通	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
香川県信用保証協会会長	西原 義一	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
帝國製薬(株)代表取締役社長	藤岡 実佐子	令和5年10月1日～令和7年9月30日	
香川県教育委員会教育長	淀谷 圭三郎	令和5年10月1日～令和7年9月30日	

以上6名

○国立大学法人香川大学諮問会議規則

令和4年4月1日

改正 令和4年6月2日

(趣旨)

第1条 国立大学法人香川大学は、法人経営に学外の視点を積極的に取り入れ、管理運営の改善充実を図るために、国立大学法人香川大学諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、学長の諮問に応じて、経営上の課題についての検討と中期計画の達成状況の外部評価を行う。

(組織)

第3条 会議の委員は、国立大学法人香川大学経営協議会規則第2条第1項第3号に掲げる者及び法人経営の課題に関し広くかつ高い識見を有する学外者のうちから、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条の委員の任期は2年とし、再任することができる。ただし、委員の任期の末日は、当該委員を任命する学長の任期の末日以前とする。

(議長等)

第5条 会議に議長を置き、学長が指名する。

2 議長は、学長の要請にもとづき、会議を主宰する。

3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事)

第5条の2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 会議の事務は、企画総務部総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和4年6月2日）

この規則は、令和4年6月2日から施行する。

○国立大学法人香川大学諮問会議規則

令和4年4月1日

改正 令和4年6月2日

(趣旨)

第1条 国立大学法人香川大学は、法人経営に学外の視点を積極的に取り入れ、管理運営の改善充実を図るために、国立大学法人香川大学諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、学長の諮問に応じて、経営上の課題についての検討と中期計画の達成状況の外部評価を行う。

(組織)

第3条 会議の委員は、国立大学法人香川大学経営協議会規則第2条第1項第3号に掲げる者及び法人経営の課題に関し広くかつ高い識見を有する学外者のうちから、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条の委員の任期は2年とし、再任することができる。ただし、委員の任期の末日は、当該委員を任命する学長の任期の末日以前とする。

(議長等)

第5条 会議に議長を置き、学長が指名する。

2 議長は、学長の要請にもとづき、会議を主宰する。

3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事)

第5条の2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 会議の事務は、企画総務部総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和4年6月2日）

この規則は、令和4年6月2日から施行する。